

気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書 1

平成24年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査

2017

気仙沼市教育委員会

気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書 1

平成 24 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査

序 文

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震が引き起こした巨大津波は、東日本の沿岸部を襲い、本市においても沿岸部を中心に壊滅的な被害をもたらしました。被災家屋約 26,000 棟、被災世帯約 9,500 世帯、1,300 人を超える尊い命が犠牲となりました。

未曾有の大震災からの一日も早い復旧・復興を目指し、個人での住宅再建をはじめ、高台への集団移転、各種産業施設やインフラ関係等で大規模な開発計画に伴い、埋蔵文化財とのかかわりが急増いたしました。

本市には、縄文時代の貝塚や集落跡、中世の城館跡など 180 カ所以上の遺跡が知られていますが、これらの多くは沿岸部の丘陵地帯に立地しているため、津波の浸水域を避けた土地を求める場合、必然的に埋蔵文化財とのかかわりが発生する可能性が増大するという地理的な状況にあります。

気仙沼市教育委員会では、復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との両立を図るため、職員の再任用や任期付職員の採用に加え、宮城県や他自治体へ職員の派遣要請を行い、埋蔵文化財の発掘調査に対応する専門職員を確保するほか、宮城県教育委員会はじめ関係機関に調査支援を要請するなど調査体制を整備してまいりました。

本書は、平成 24 年度、本市が国の東日本大震災復興交付金事業として実施した、個人住宅建築等に関連する埋蔵文化財発掘調査成果を集成した報告書ですが、収録した考古学的成果は、これまであまり知られていなかった当地域の歴史を解明する貴重な資料となるものです。太古から幾多の大津波や自然災害を克服しながら、手強い海と深くかかわる一方、豊かな海の恩恵を受け、この地に根差した文化を育んできた人びとの営みの一端を記録し伝えることが地域の再発見につながるとともに、大震災後の本市の復旧・復興に向けたまちづくりの一助となれば幸甚に存じます。

結びに、円滑な埋蔵文化財発掘調査にご協力をいただいた事業者の皆様、宮城県教育委員会、本市の埋蔵文化財発掘調査のため支援をいただきました全国からの自治体派遣職員の皆様並びに派遣元自治体の皆様など、ご支援を頂いた多くの関係者・関係機関の皆様にも厚く御礼を申し上げます。

平成 29 年 12 月

気仙沼市教育委員会
教育長 齋藤 益男

例 言

- 1 本書は、平成24年度に実施した東日本大震災の復興事業に伴う個人住宅建築等に係る埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 各遺跡の発掘調査は、気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の支援を受けて実施した。
- 3 各遺跡の整理・報告書作成作業は、平成26～29年度に気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の支援を受けて実施した。
- 4 使用した遺構略号は、SI:堅穴建物跡 SK:土坑 SD:溝跡 SX:土器埋設遺構 柱穴・ピット:Pである。
- 5 平成23年度以降に発掘調査を実施した周知の埋蔵文化財包蔵地（遺跡）には、アルファベット大文字の3文字で遺跡記号を付与した。磯草貝塚は「ISO」、高谷遺跡は「TKY」、古館貝塚は「KOD」、南最知貝塚は「MSK」、星谷遺跡は「HOS」である。各遺跡の調査字数は年度内において1次調査、2次調査・・・とした。
- 6 発掘調査面積については、本書に記載するものを確定面積とする。
- 7 挿図の縮尺は、挿図ごとに示した。
- 8 本書で使用した方位は磁北であるが、異なるものは方位を示した。
- 9 発掘作業における実測図作成及び写真撮影は、調査担当者が行った。
- 10 発掘調査成果の内容や土層の色調等の表現については、原則として現場担当者による注記等を採用した。
- 11 整理・報告書作成作業における土器の注記及び接合・復元作業に係る業務は株式会社バスコへ委託し、森幸一郎が監理を行った。
- 12 遺物への注記は、各遺跡の記号を頭に、出土地点・出土層位・出土年月日を記入した。
- 13 整理・報告書作成作業における遺物の実測図・トレース図作成、写真撮影及び観察表作成に係る業務は、気仙沼市教育委員会が宮城県教育庁文化財保護課の支援を受けて実施した。業務の一部は株式会社四門及び国際文化財株式会社へ委託し、森・平木場秀男が監理した。
- 14 整理・報告書作成作業における遺構等のトレース及び報告書編集の支援に係る業務は、株式会社四門へ委託し、永瀬功治が監理した。
- 15 磯草貝塚平成24年度1次調査で出土した自然遺物の分析については、山崎健氏・松崎哲也氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）に依頼し、玉稿（第7章）を頂いた。
- 16 骨角器の材質同定は山崎氏・松崎氏が行った。
- 17 本書の執筆は、第1章を森・平木場が、第2～6章を西村力が行った。編集は、森・平木場・西村・古田和誠が行った。
- 18 出土遺物及び実測図・写真等の記録類は、気仙沼市教育委員会が保管し、展示・活用を図る予定である。

目 次

序文
例言
目次

| | |
|---------------------|----|
| 第1章 調査の経過 | 1 |
| 1. 東日本大震災後の対応・予算措置等 | 1 |
| (1) 東日本大震災後の対応 | 1 |
| (2) 調査体制 | 2 |
| (3) 復興交付金事業にかかる予算措置 | 2 |
| 2. 確認調査 | 2 |
| 3. 本発掘調査 | 5 |
| 4. 整理作業・報告書作成 | 6 |
| 第2章 磯草貝塚 | 7 |
| 1. 調査に至る経緯 | 7 |
| 2. 調査の概要 | 7 |
| (1) 平成24年度1次調査 | 7 |
| (2) 平成24年度2次調査 | 8 |
| 3. 調査の成果 | 8 |
| 4. まとめ | 11 |
| (1) 遺物 | 11 |
| (2) 貝層・遺物包含層について | 28 |
| 第3章 高谷遺跡 | 33 |
| 1. 調査に至る経緯 | 33 |
| 2. 調査の概要 | 33 |
| 3. 調査の成果 | 33 |
| (1) 3区 | 33 |
| (2) 4区 | 41 |
| 4. まとめ | 45 |
| (1) 土坑 | 45 |
| (2) ビット | 46 |
| 第4章 古館貝塚 | 49 |
| 1. 調査に至る経緯 | 49 |
| 2. 調査の概要 | 49 |
| 3. 調査の成果 | 49 |

| | |
|---------------------|----|
| 4. まとめ | 53 |
| 第5章 南最知貝塚 | 55 |
| 1. 遺跡の概要 | 55 |
| 2. 調査に至る経緯 | 55 |
| 3. 調査の概要 | 55 |
| (1) 平成24年度1次調査 | 55 |
| (2) 平成24年度2次調査 | 56 |
| 4. 調査の成果 | 56 |
| (1) 平成24年度1次調査地点 | 56 |
| (2) 平成24年度2次調査地点 | 58 |
| 5. まとめ | 60 |
| 第6章 星谷遺跡 | 62 |
| 1. 調査に至る経緯 | 62 |
| 2. 調査の概要 | 63 |
| 3. 調査の成果 | 63 |
| 4. まとめ | 65 |
| 第7章 磯草貝塚から出土した動物遺存体 | 67 |
| 1. 整理対象遺物(分析資料)の限定 | 67 |
| 2. 同定・記載 | 67 |
| 3. 動物利用の時期的変遷 | 69 |
| 4. 採貝活動 | 69 |
| 5. 漁撈活動 | 70 |
| 6. まとめ | 71 |
| 7. 今後の課題 | 71 |
| 写真図版 | 77 |
| 報告書抄録 | |

挿 図 目 次

| | | | |
|------------------------|----|-----------------------------|----|
| 第1図 気仙沼市の位置と遺跡の分布 | 3 | 第10図 磯草貝塚 T3-A2・C層出土遺物 | 15 |
| 第2図 磯草貝塚の位置 | 7 | 第11図 磯草貝塚 T3-C層出土遺物 | 16 |
| 第3図 磯草貝塚トレンチ配置図 | 8 | 第12図 磯草貝塚 T3-17層出土遺物 | 17 |
| 第4図 磯草貝塚包含層分布図・断面図(1) | 9 | 第13図 磯草貝塚 T3-4～17層出土遺物 | 18 |
| 第5図 磯草貝塚包含層分布図・断面図(2) | 10 | 第14図 磯草貝塚 T3-A1～17層出土遺物(1) | 19 |
| 第6図 磯草貝塚 T3-7・8層出土遺物 | 11 | 第15図 磯草貝塚 T3-A1～17層出土遺物(2) | 20 |
| 第7図 磯草貝塚 T3-7・12層出土遺物 | 12 | 第16図 磯草貝塚 T1・2・4～8、2次調査出土遺物 | 21 |
| 第8図 磯草貝塚 T3-13・A1層出土遺物 | 13 | 第17図 磯草貝塚出土土器分類図(1) | 23 |
| 第9図 磯草貝塚 T3-A2層出土遺物 | 14 | 第18図 磯草貝塚出土土器分類図(2) | 24 |

| | | | | | |
|------|--------------------------|----|------|------------------------|----|
| 第19回 | 高谷遺跡の位置 | 33 | 第35回 | 古館貝塚 S4 出土遺物 | 53 |
| 第20回 | 高谷遺跡調査概図 | 34 | 第36回 | 南蔵知貝塚の位置 | 55 |
| 第21回 | 高谷遺跡遺構配置図 | 34 | 第37回 | 南蔵知貝塚調査箇所 | 56 |
| 第22回 | 高谷遺跡 3区遺構平面図・断面図 (1) | 36 | 第38回 | 南蔵知貝塚平成24年度1次調査遺構配置図 | 57 |
| 第23回 | 高谷遺跡 3区遺構平面図・断面図 (2) | 37 | 第39回 | 南蔵知貝塚平成24年度2次調査遺構配置図 | 58 |
| 第24回 | 高谷遺跡 3区 SK1-2・4・6・7 出土遺物 | 39 | 第40回 | 南蔵知貝塚平成24年度2次調査 S11 はか | 59 |
| 第25回 | 高谷遺跡 3区 SK9-10 出土遺物 | 40 | 第41回 | 泉谷遺跡の位置 | 62 |
| 第26回 | 高谷遺跡 4区 SK2 出土遺物 | 41 | 第42回 | 泉谷遺跡調査箇所 | 62 |
| 第27回 | 高谷遺跡 4区遺構平面図・断面図 | 42 | 第43回 | 泉谷遺跡包含層出土遺物 | 63 |
| 第28回 | 高谷遺跡 4区 SK3・4 出土遺物 | 43 | 第44回 | 泉谷遺跡遺構平面図・断面図 | 64 |
| 第29回 | 高谷遺跡 4区 SK5 出土遺物 | 44 | 第45回 | 泉谷遺跡 S11 窓穴建物跡出土遺物 | 65 |
| 第30回 | 高谷遺跡 4区 S66 出土遺物 | 45 | 第46回 | 質量の層位変化 | 69 |
| 第31回 | 古館貝塚の位置 | 49 | 第47回 | 動物遺存体の層位変化 | 69 |
| 第32回 | 古館貝塚トレンチ配置図 | 50 | 第48回 | 貝類組成の層位変化 | 70 |
| 第33回 | 古館貝塚 T3 遺構平面図・断面図 | 51 | 第49回 | 魚類組成の層位変化 | 70 |
| 第34回 | 古館貝塚 SK1-2 出土遺物 | 52 | | | |

目 次

| | | | | | |
|------|------------------------|----|------|---------------------------|----|
| 第1表 | 平成24年度発掘調査一覧 | 4 | 第19表 | 古館貝塚出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 54 |
| 第2表 | 平成23年度発掘調査一覧 | 5 | 第20表 | 南蔵知貝塚出土石器観察表 (図示資料) | 61 |
| 第3表 | 磯草貝塚土器類型出土状況表 | 26 | 第21表 | 南蔵知貝塚出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 61 |
| 第4表 | 磯草貝塚トレンチ層序対応表 | 29 | 第22表 | 南蔵知貝塚出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 61 |
| 第5表 | 磯草貝塚出土縄文土器観察表 (図示資料) | 29 | 第23表 | 泉谷遺跡出土石器観察表 (図示資料) | 66 |
| 第6表 | 磯草貝塚出土縄文土器観察表 (写真のみ掲載) | 30 | 第24表 | 泉谷遺跡出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 66 |
| 第7表 | 磯草貝塚出土土製品観察表 | 32 | 第25表 | 泉谷遺跡出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 66 |
| 第8表 | 磯草貝塚出土石器観察表 (図示資料) | 32 | 第26表 | 磯草貝塚から出土した動物遺存体の種名一覧 | 68 |
| 第9表 | 磯草貝塚出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 32 | 第27表 | 哺乳類・鳥類の観察表 (現場採集資料) | 72 |
| 第10表 | 磯草貝塚出土骨角器観察表 | 32 | 第28表 | 哺乳類・鳥類の観察表 (4mm目フルイ資料) | 72 |
| 第11表 | 高谷遺跡土坑一覧表 | 46 | 第29表 | 貝類の集計表 (現場採集資料) | 73 |
| 第12表 | 高谷遺跡出土縄文土器観察表 (図示資料) | 46 | 第30表 | 貝類の集計表 (4mm目フルイ資料) | 73 |
| 第13表 | 高谷遺跡出土縄文土器観察表 (写真のみ掲載) | 47 | 第31表 | フジツボ類・ウニ類の集計表 (4mm目フルイ資料) | 73 |
| 第14表 | 高谷遺跡出土石器観察表 (図示資料) | 47 | 第32表 | フジツボ類・ウニ類の質量表 (4mm目フルイ資料) | 73 |
| 第15表 | 高谷遺跡出土石器観察表 (写真のみ掲載) | 47 | 第33表 | 魚類の集計表 (現場採集資料) | 74 |
| 第16表 | 古館貝塚土坑一覧表 | 53 | 第34表 | 魚類の集計表 (4mm目フルイ資料) | 74 |
| 第17表 | 古館貝塚出土縄文土器観察表 (図示資料) | 54 | | | |
| 第18表 | 古館貝塚出土縄文土器観察表 (写真のみ掲載) | 54 | | | |

写真版目次

| | | | | | |
|---------|------------------|----|---------|---------------|----|
| 写真図版 1 | 磯草貝塚発掘現場 (1) | 77 | 写真図版 12 | 高谷遺跡発掘現場 (1) | 88 |
| 写真図版 2 | 磯草貝塚発掘現場 (2) | 78 | 写真図版 13 | 高谷遺跡発掘現場 (2) | 89 |
| 写真図版 3 | 磯草貝塚出土土器 (1) | 79 | 写真図版 14 | 高谷遺跡発掘現場 (3) | 90 |
| 写真図版 4 | 磯草貝塚出土土器 (2) | 80 | 写真図版 15 | 高谷遺跡出土土器 | 91 |
| 写真図版 5 | 磯草貝塚出土土器 (3) | 81 | 写真図版 16 | 高谷遺跡出土土器 (1) | 92 |
| 写真図版 6 | 磯草貝塚出土土器 (4) | 82 | 写真図版 17 | 高谷遺跡出土土器 (2) | 93 |
| 写真図版 7 | 磯草貝塚出土土器 (5) | 83 | 写真図版 18 | 古館貝塚発掘現場 | 94 |
| 写真図版 8 | 磯草貝塚出土土器 (6) | 84 | 写真図版 19 | 古館貝塚出土遺物 | 95 |
| 写真図版 9 | 磯草貝塚出土土器 (7) | 85 | 写真図版 20 | 南蔵知貝塚発掘現場 | 96 |
| 写真図版 10 | 磯草貝塚出土土製品・石器・骨角器 | 86 | 写真図版 21 | 南蔵知貝塚出土遺物 | 97 |
| 写真図版 11 | 磯草貝塚出土動物遺存体 | 87 | 写真図版 22 | 泉谷遺跡発掘現場・出土遺物 | 98 |

第1章 調査の経過

1. 東日本大震災後の対応・予算措置等

(1) 東日本大震災後の対応

①埋蔵文化財の取扱いについて

平成23年3月11日の東日本大震災の発生を受け、文化庁は、発災後の平成23年4月28日付け(23庁財第61号)で「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて(通知)」により、宮城県を含む1都7県1市の教育委員会教育長に対し、被災地の復旧・復興事業の円滑な推進と埋蔵文化財の適切な保護との整合性を図るよう通知を行った。また、平成24年4月17日付け(24庁財第62号)で同名の通知を発し、宮城・岩手・福島・仙台市の3県1市の教育委員会教育長に対し、迅速な埋蔵文化財の発掘調査を実施するための留意点を示した。

宮城県教育委員会は、県内市町村に対し、平成23年6月3日付け(文第268号)で「東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて」を発出し、事業計画の早期把握による周知の埋蔵文化財包蔵地での開発事業の回避及び発掘調査に備えた埋蔵文化財包蔵地の早期の内容把握を求めるとともに、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用、専門職員の確保や民間調査組織の導入を含めた調査体制の充実を図り、迅速な発掘調査に努め、設定した調査期間を厳守することの方針が示された。

気仙沼市教育委員会では、文化庁及び宮城県教育委員会の提示した方針に基づき宮城県教育委員会の協力を得ながら、迅速かつ適正な発掘調査を実施することとした。

※東日本大震災によって文化庁が発した埋蔵文化財関係の通知等

- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて(通知)(平成23年4月28日付け23庁財第61号)
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについて(通知)(平成24年4月17日付け24庁財第62号)
- ・東日本大震災の復旧・復興事業に伴う埋蔵文化財の取扱いに関する平成23年4月28日付け文化庁長官通知(23庁財第61号)について(通知)(平成25年2月18日24庁財第691号)
- ・東日本大震災の復興に伴う防災集団移転促進事業における埋蔵文化財発掘調査の実施に関する取扱いについて(通知)(平成25年3月15日付け事務連絡)
- ・東日本大震災の復興に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する取扱いについて(回答)(平成25年3月15日付け事務連絡)

※東日本大震災によって宮城県教育委員会が発した埋蔵文化財関係の通知

- ・東日本大震災の復興に伴う埋蔵文化財の取扱いについて(通知)(平成23年6月3日文第268号)

②調査主体

東日本大震災復興交付金事業の基幹事業に位置付けられた防災集団移転事業や土地区画整理事業等の大規模な事業については、分佈・試掘調査を宮城県教育委員会が行い、確認調査及び本発掘調査を気仙沼市教育委員会が行うこととした。また、被災した個人住宅及び中小零細企業の店舗・工場等の再建に伴う発掘調査は、気仙沼市教育委員会が主体となり実施することとした。

気仙沼市教育委員会が主体となって行う調査については、調査内容・規模等必要に応じて随時宮城県教育委員会から専門職員の派遣を受けて実施することとした。

(2) 調査体制

気仙沼市では、震災復興計画が策定される中で、集団移転事業など多くの開発事業が、周知の埋蔵文化財包蔵地へ影響を及ぼす可能性が高くなることが予想され、震災以前の文化財保護体制では、発掘調査を行う専門職員の不足が見込まれた。

そこで、平成24年4月に専門職員1名を再任用するとともに、平成25年1月には鹿児島県教育委員会からの派遣職員1名と、宮城県が復興事業推進のため採用した任期付職員2名の派遣を受け、発掘調査体制の強化を図った。

平成24年度の磯草貝塚ほか4遺跡の調査体制及び宮城県教育庁文化財保護課の調査協力は以下のとおりである。

【調査担当】 生涯学習課文化振興係

生涯学習課長 千葉光広 課長補佐 鈴木實夫 主幹兼文化振興係長 昆野賢一
担当：主幹 幡野寛治 主査 西園勝彦（鹿児島県派遣 1月～） 主査 千葉絢子
武部喜充・鹿島直樹（任期付 1月～）

【調査協力】 宮城県教育庁文化財保護課（職名・敬称略、括弧内は派遣元等自治体）

豊村幸宏 山中信宏（宮城県） 三好秀樹（多賀城跡調査研究所） 逸藤 武（愛媛県）
小淵忠司（岐阜県）

(3) 復興交付金事業にかかる予算措置

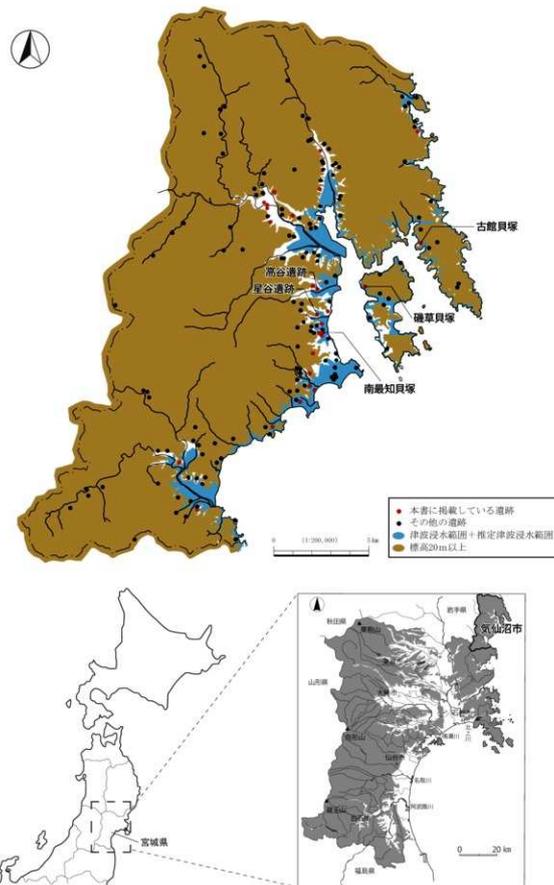
被災した個人住宅や中小零細企業の店舗・工場等の再建にかかる確認調査・本発掘調査は、東日本大震災復興交付金事業の埋蔵文化財発掘調査事業に位置付けられている。また、防災集団移転促進事業や土地区画整理事業等の復興交付金基幹事業については、確認調査を埋蔵文化財発掘調査事業で行い、本発掘調査については当該基幹事業の中で行うこととなっている。

埋蔵文化財発掘調査事業に該当する発掘調査費用については、国費の負担割合を75%に引き上げた上で、市が負担する25%は特別地方交付税措置により補てんされることになっており、財政負担の軽減が図られている。

2. 確認調査

気仙沼市では、平成27年3月時点で180箇所以上の周知の埋蔵文化財包蔵地（以下、「遺跡」）が確認されているが、その多くが沖積地に隣接した丘陵や段丘上に所在する。第1図は気仙沼市の遺跡の分布と東日本大震災の津波浸水域を示したものである。ほとんどの遺跡が津波の浸水を逃れていることがわかるが、逆の見方をするならば、被災者の個人住宅再建や高台移転等の候補地に多くの遺跡が分布しているということになる。

平成24年3月23日に復興交付金事業の交付決定を受け、平成24年4月から発掘調査を実施することとなった。本市では過去に経験のない規模の発掘調査であり、多数の発掘調査を実施するための



第1図 気仙沼市の位置と遺跡の分布

作業員の確保や機材の調達等の契約に時間を要したが、事業者の協力もあり4月から確認調査を実施することができた。準備がほぼ整った5月下旬から最初の個人住宅再建に伴う本発掘調査を実施した。震災復興に係る遺跡の取り扱いには、現地保存を前提とし、やむを得ず本発掘調査を実施する場合も、掘削範囲を必要最小限に留めるよう調整している。

調査に際しては、復興事業にかかる調査の円滑化・迅速化を推進するため、宮城県発掘調査基準の弾力的な運用がなされた。

平成24年度に実施した確認調査は、41件23遺跡(第1表)と急激に増加した。内訳は、個人住宅の再建に伴う調査39件、中小企業等の再建に伴う調査2件である。

確認調査の結果、遺構・遺物が確認され現地保存に至った例は2件である。南最知貝塚における個人住宅の建築においては、縄文時代の竪穴建物跡4棟、古代の竪穴建物跡2棟、中世館館に伴うと推定される溝跡2条のほか遺物包含層が確認され、事業者と協議し遺構面には掘削が及ばない厚さまで盛土して宅地を造成した上で住宅を建築した(南最知貝塚平成24年度1次調査)。

同じく、南最知貝塚における個人住宅建築では、古代の竪穴建物跡1棟が確認され、事業者と協議し、当初の計画位置を変更し、遺構を避けて住宅を建築した(南最知貝塚平成24年度2次調査)。

これらの調整により本調査を回避し、調査期間の短縮による住宅の早期再建と遺跡の現地保存の両立を図ることができた。

なお、東日本大震災直後の平成23年度にも確認調査を10件11遺跡(第2表)実施したが、いずれも遺構・遺物は確認されなかった。

第1表 平成24年度発掘調査一覧

| № | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡記号 | 所在地 | 調査原因 | 対応 | 対象面積(㎡) | 調査面積(㎡) | 調査期間 | 発見された遺構・遺物 | 調査担当 | | 備考 |
|----|-------|-------|-------|------------|------|-------|----------|---------|-------------|--------------------------------|---------------------|-------------|-------|
| | | | | | | | | | | | 気仙沼市 | 宮城県支援 | |
| 1 | 二島古墳群 | 63001 | M1.S | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 255.75 | 20 | 4月18日 | なし | 掘削発掘 | 発掘発掘 | |
| 2 | 三島古墳群 | 62001 | M1.S | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 463.00 | 70 | 4月18日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 3 | 最知南最知 | 59041 | S.A.N | 最知南最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 675.29 | 6 | 5月15日 | なし | 跡木調査 | 発掘発掘 | |
| 4 | 高谷遺跡 | 59009 | T.K.Y | 松崎高谷 | 個人住宅 | 本発掘調査 | 915.42 | 225 | 5月23日～6月12日 | 野竈穴・土坑 縄文土器・石器 | 農村生活 三石巻等 小遺物 | 本発掘調査 | |
| 5 | 南最知城跡 | 59043 | M.S.J | 長瀬谷子沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 491.82 | 8 | 5月28日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 6 | 田井貝塚 | 59013 | T.G.K | 長瀬谷子沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 352.78 | 40 | 6月7日 | 縄文土器 | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 7 | 田井貝塚 | 59013 | T.G.K | 長瀬谷子沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 352.54 | 40 | 6月7日 | 縄文土器 | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 8 | 南最知貝塚 | 59035 | M.S.K | 最知南最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 2,043.00 | 400 | 6月13日～6月22日 | 竪穴建物跡・土坑・溝 縄文土器・陶器等・土 器類 | 跡木調査 掘削発掘 | 農村生活 小遺物 | 本発掘調査 |
| 9 | 旭岡遺跡 | 63010 | A.S.A | 本吉町津谷 子 | 個人住宅 | 確認調査 | 608.98 | 8 | 6月29日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 10 | 鳳堂城跡 | 63002 | H.O.K | 本吉町津谷 子 | 個人住宅 | 確認調査 | 971.71 | 70 | 7月2日～7月31日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 11 | 牟婁城跡 | 59059 | A.K.J | 松田 | 個人住宅 | 確認調査 | 330.00 | 6 | 7月6日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 12 | 高谷貝塚 | 59044 | T.A.S | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 430.70 | 6 | 7月18日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 13 | 長谷遺跡 | 59104 | H.O.S | 長谷早登 | 個人住宅 | 確認調査 | 381.14 | 60 | 7月19日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 14 | 長谷遺跡 | 59104 | H.O.S | 長谷早登 | 個人住宅 | 確認調査 | 322.79 | 30 | 7月19日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 15 | 吉道貝塚 | 63007 | K.O.D | 徳島町柳立 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,243.85 | 40 | 7月30日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 16 | 吉道貝塚 | 63007 | K.O.D | 徳島町柳立 | 個人住宅 | 確認調査 | 467.00 | 105 | 7月30日～8月1日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 17 | 吉道貝塚 | 63007 | K.O.D | 徳島町柳立 | 個人住宅 | 本発掘調査 | 467.34 | 51 | 7月30日～8月1日 | 野竈穴・土坑 縄文土器・石器 | 跡木調査 掘削発掘 | 農村生活 小遺物 | 本発掘調査 |
| 18 | 旭岡遺跡 | 63010 | A.S.A | 本吉町津谷 子 | 個人住宅 | 確認調査 | 824.77 | 60 | 7月30日～7月31日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 19 | 高谷貝塚 | 59044 | T.K.Y | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 420.00 | 6 | 8月3日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |

| № | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡記号 | 所在地 | 調査原因 | 対応 | 対象面積(㎡) | 調査面積(㎡) | 調査期間 | 発見された遺構・遺物 | 調査担当 | | 備考 |
|----|-------|-------|-------|--------|-------|-------|----------|---------|---------------|--------------------------------|--------------|--------------------|------------|
| | | | | | | | | | | | 気仙沼市 | 宮城県支援 | |
| 20 | 南最知貝塚 | 59035 | M.S.K | 最知南最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 373.00 | 155 | 8月6日～8月10日 | 竪穴建物跡・土坑・溝 縄文土器・陶器等・土 器類 | 掘削発掘 | 掘削発掘 | 本発掘調査 |
| 21 | 牟婁城跡 | 59055 | S.A.R | 最知北最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 763.91 | 226 | 9月12日～9月14日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 22 | 長谷遺跡 | 59104 | H.O.S | 長谷早登 | 個人住宅 | 本発掘調査 | 313.86 | 40 | 9月21日～10月2日 | 竪穴建物跡・土坑 縄文土器・石器 | 掘削発掘 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 23 | 長崎城跡 | 59064 | N.S.J | 長崎 | 個人住宅 | 確認調査 | 280.29 | 50 | 10月4日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 24 | 牟婁城跡 | 59069 | K.A.R | 蔵底 | 中小企業等 | 確認調査 | 656.34 | 76 | 10月9日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 25 | 牟婁城跡 | 59045 | S.A.R | 最知北最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,161.82 | 184 | 10月10日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 26 | 旭岡遺跡 | 63006 | S.O.M | 谷月台ノ沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 500.00 | 50 | 10月11日～10月12日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | 三石巻等 遺物 |
| 27 | 磯貝貝塚 | 59001 | I.S.O | 磯草 | 個人住宅 | 確認調査 | 719.75 | 60 | 10月16日～11月28日 | 貝類・縄文土器・石器 | 掘削発掘 掘削発掘 | 山中宮古 三石巻等 遺物 | 本発掘調査 |
| 28 | 磯貝貝塚 | 59001 | I.S.O | 磯草 | 個人住宅 | 本発掘調査 | 719.75 | 24 | 10月17日～10月25日 | 貝類・縄文土器・土製品 石器・石製品、自然産 物 | 掘削発掘 掘削発掘 | 山中宮古 三石巻等 遺物 | 本発掘調査 |
| 29 | 平目遺跡 | 62044 | H.I.R | 本吉町平目 | 個人住宅 | 確認調査 | 633.00 | 150 | 10月17日～10月22日 | ビツツ・溝・縄文土器 土器類・石器 | 跡木調査 掘削発掘 | 跡木調査 掘削発掘 | |
| 30 | 最知中野跡 | 59041 | S.A.N | 最知南最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 581.95 | 90 | 10月20日～11月2日 | なし | 跡木調査 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 31 | 組合城跡 | 59028 | H.O.R | 渡路上内田 | 中小企業等 | 確認調査 | 809.89 | 36 | 11月26日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 32 | 野ノ下遺跡 | 62042 | N.O.N | 本吉町野ノ下 | 個人住宅 | 確認調査 | 991.76 | 125 | 11月20日～11月28日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 33 | 川原城跡 | 59105 | K.A.W | 川原輪 | 個人住宅 | 確認調査 | 953.83 | 80 | 12月5日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 34 | 帆立遺跡 | 63014 | N.O.S | 徳島町帆立 | 個人住宅 | 確認調査 | 973.13 | 128 | 12月20日～12月21日 | 縄文土器・石器 | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 35 | 奥野中野跡 | 62037 | K.U.R | 本吉町奥野 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,136.00 | 144 | 1月8日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 36 | 高谷遺跡 | 59109 | T.K.Y | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 429.36 | 30 | 1月17日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 37 | 三島古墳群 | 62001 | M1.S | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 561.00 | 84 | 2月14日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 38 | 三島古墳群 | 62001 | M1.S | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 534.03 | 63 | 2月15日～2月19日 | なし | 跡木調査 | 掘削発掘 | |
| 39 | 南最知城跡 | 59043 | M.S.J | 長瀬谷子沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 90.50 | 52 | 2月21日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 40 | 磯貝貝塚 | 59001 | I.S.O | 磯草 | 個人住宅 | 確認調査 | 958.59 | 110 | 3月7日～3月8日 | 縄文土器・石器 | 掘削発掘 | 掘削発掘 | 本発掘調査 |
| 41 | 高谷遺跡 | 59109 | T.K.Y | 松崎高谷 | 個人住宅 | 本発掘調査 | 141.23 | 141.23 | 3月21日～3月26日 | 縄文土器・石器 | 跡木調査 掘削発掘 | 掘削発掘 | 本発掘調査 |

第2表 平成23年度発掘調査一覧

| № | 遺跡名 | 遺跡番号 | 遺跡記号 | 所在地 | 調査原因 | 対応 | 対象面積(㎡) | 調査面積(㎡) | 調査期間 | 発見された遺構・遺物 | 調査担当 | | 備考 |
|----|-------|-------|-------|-------|------|------|----------|---------|---------------|------------|------|-------|----|
| | | | | | | | | | | | 気仙沼市 | 宮城県支援 | |
| 1 | 高谷遺跡 | 59109 | T.K.Y | 松崎高谷 | 個人住宅 | 確認調査 | 279.56 | 17 | 7月19日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 2 | 長崎城跡 | 59025 | N.A.G | 長崎 | 個人住宅 | 確認調査 | 271.42 | 29 | 10月7日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 3 | 旭岡遺跡 | 59066 | S.O.M | 谷月台ノ沢 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,287.82 | 47 | 10月13日～10月14日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 4 | 八幡城跡 | 59054 | K.R.M | 川原輪 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,023.44 | 10 | 10月25日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 5 | 牟婁城跡 | 59045 | S.A.R | 最知北最知 | 個人住宅 | 確認調査 | 276.82 | 49 | 10月26日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 6 | 西才貝塚 | 59017 | N.N.S | 西中才 | 個人住宅 | 確認調査 | 264.48 | 9 | 12月13日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 7 | 平島遺跡 | 59027 | T.A.I | 平島 | 個人住宅 | 確認調査 | 915.04 | 10 | 12月15日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 8 | 原田貝塚 | 62040 | M.A.E | 本吉町原田 | 個人住宅 | 確認調査 | 691.78 | 26 | 1月10日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 9 | 吉道貝塚 | 63017 | K.O.D | 徳島町柳立 | 個人住宅 | 確認調査 | 1,665.06 | 20 | 3月26日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |
| 10 | 三島古墳群 | 62001 | M1.S | 本吉町三島 | 個人住宅 | 確認調査 | 417.00 | 10 | 3月27日 | なし | 掘削発掘 | 掘削発掘 | |

3. 本発掘調査

平成24年度に本事業で実施した本発掘調査は5件4遺跡で、全て被災者が行う個人住宅再建に伴う調査である。

個人住宅は調査面積が狭いことから、確認調査で遺構や遺物包含層等が確認され、工事計画上、現地保存が不可能である場合は、そのまま本発掘調査に移行した。調査は、掘削が及ぶ範囲に保護層を

考慮した必要最小限の範囲を対象とした。

本書では、平成24年度に本発掘調査・確認調査を実施し、遺構・遺物が出土した5遺跡について報告する。

4. 整理作業・報告書作成

本書に係る整理作業及び報告書作成作業は、宮城県教育庁文化財保護課の協力を得て、平成26～29年度に気仙沼市文化財収納庫及び日浦島小学校整理作業場で行った。

整理作業及び報告書作成作業の簡略化・効率化を図るため、以下の業務について民間調査組織への業務委託を行った。

- ・土器の注記及び接合作業（平成26年7月～8月）
- ・遺物実測図等作成業務及び写真撮影等業務（平成26年11月～平成27年2月）
- ・埋蔵文化財発掘調査報告書作成業務（平成27年4月～平成27年6月・平成29年3月）

また、磯草貝塚平成24年度1次調査で出土した自然遺物と同定・分析については独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所へ業務委託した（平成26年12月～平成27年4月）。

整理作業・報告書作成の整理担当者は以下のとおりである。

- | | |
|----------------------|------------------|
| 平成26年度：森 幸一郎（鹿児島県派遣） | |
| 平成27年度：永濱功治（鹿児島県派遣） | 西村 力（宮城県支援） |
| 平成28年度：平木場秀男（鹿児島県派遣） | 西村 力（宮城県支援） |
| 平成29年度：平木場秀男（鹿児島県派遣） | 西村 力・古田和誠（宮城県支援） |

第2章 磯草貝塚

遺跡名：磯草貝塚（宮城県遺跡地名表登録番号59001）

所在地：気仙沼市磯草

調査原因：24年度1次調査：個人住宅建設

24年度2次調査：個人住宅建設

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査協力：宮城県教育委員会

調査期間：1次：平成24年10月17日～10月25日

2次：平成25年3月7日～3月8日

対象面積：1次：719.75㎡ 2次：978.59㎡

調査面積：1次：24㎡ 2次：110㎡

調査員：昆野賢一、鈴木實夫、韓野寛治、西園勝彦
山中信弘・三好秀樹・遠藤 武（宮城県支援）

整理協力：山崎健・松崎哲也

（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）



第2図 磯草貝塚の位置

1. 調査に至る経緯

市史跡である磯草貝塚は大島の北西部、気仙沼湾に面する標高10～20m程の南西斜面に立地し、遺跡の北西から中央に向かって谷が入る地形となっている（第2図）。縄文時代前期から晩期の貝塚で、西斜面と南斜面に貝層が分布することが知られている（東北歴史資料館1989）。西斜面貝層は北西から入る谷の谷頭にある貝層で昭和37年に冊が浦高校による調査が行われた。アサリ・レイシなどを主体とする前期末から中期初頭の貝層が確認され、周辺の包含層からは前期初頭から後葉、中期中葉、晩期末の遺物も出土した（宮城県冊が浦高等学校社会班1965）。

遺跡範囲の北側と西側の2カ所で個人住宅建設が行われることから確認調査および一部で本発掘調査を実施した（第3図）。北側が平成24年度1次調査、西側が平成24年度2次調査箇所である。

2. 調査の概要

(1) 平成24年度1次調査

T1～7の調査区を設定し確認調査を実施した。その結果、各調査区で遺物包含層及び貝層を検出し、T5では遺物包含層の分布の東端を確認した。住宅建設範囲については盛土等による保存が決定したが、擁壁設置のために掘削がおよぶT3南西部については掘削深度まで本調査を実施した。この箇所では貝層が良好に残存しており、調査の際には貝層を中心に土壌サンプルを採取し、4mm及び1mmメッシュのフルイによる水洗選別を行った。なお、T3内にサブトレンチ2カ所を設定し、地

山までの深さ及び堆積状況を確認した。また浄化槽設置箇所は T8 とし工事立会を行った。

遺物は土器・土製品・石器・石製品が整理用コンテナで 27 箱、自然遺物・骨角器が 13 箱出土した。自然遺物については、山崎健氏・松崎哲也氏に分析を依頼した。土壌サンプル資料は、人工遺物、自然遺物ともにその一部についてのみ分析を行った。

(2) 平成 24 年度 2 次調査

T1～4 の調査区を設定し確認調査を実施した。その結果、T3・4 で遺物包含層が検出されたが、設計変更により現地保存することとなった。遺物は縄文土器・石器が 3 箱分出土した。

3. 調査成果

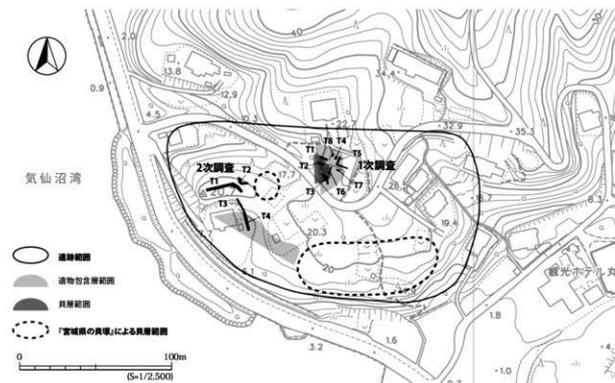
[1 次調査-T1・2]

調査対象地西側、上方の宅地と下方の畑地の段差部分に設定したトレンチで、盛土・表土下から遺物包含層を検出した（第 4 図）。包含層は黒色を呈し、縄文時代前期後半～中期中葉の遺物を含む（第 16 図）。

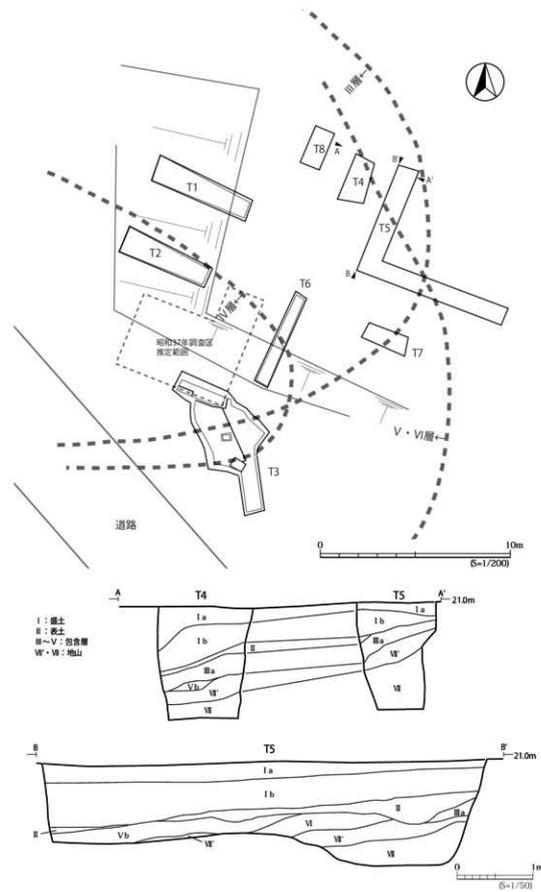
[1 次調査-T3]

本発掘調査区である。地表面標高は約 19.5m で、本調査対象所における面的掘削は 18.8～18.6m までおこなった（第 5 図）。旧地形は西に向かって下る。1～3 層は盛土・表土、4・5 層は包含層の二次堆積ないしその可能性のある層である。本来の堆積状況を保っているのは 7a 層以下で、層相と堆積範囲から大きく 3 つに大別できる。

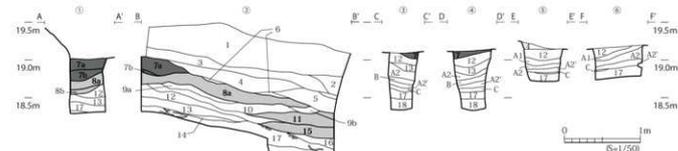
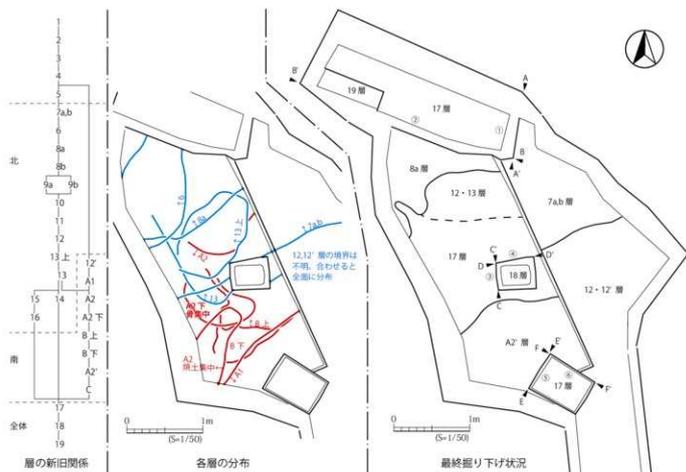
7a～12 層は主に貝層からなり調査区北側に分布する。縄文時代中期前葉を主体とする遺物を含む



第 3 図 磯草貝塚トレンチ配置図



第 4 図 磯草貝塚包含層分布図・断面図 (1)



- 1層：盛土
- 2層：埋戻
- 3層：埋戻土
- 4層：黒褐色土 (10YR2/3)、それ以前の堆積層の再堆積層
- 5層：黒褐色土 (10YR3/2)、黒褐色土の貝が30%程度を占める。炭粒・焼土粒を含む。再堆積の可能性あり
- 6層：土層、にじみ黄褐色土 (10YR4/3)、磁碎貝・炭粒・焼土粒を極少量含む
- 7a・a'・b層：埋戻層、暗褐色土 (10YR3/3)、アサリを主体とする貝層で被せられていない。層厚は30cmの本層より20cm程度が薄く磁碎貝を含む。7b層は炭粒土と見做す
- 8a・b層：磁碎貝層、黒褐色粘質土 (10YR2/2)、磁碎貝が70%程度を占める。炭粒を比較的多く含む。8a層では磁碎貝の含有量がやや少なく、非磁碎貝のものを含む
- 9層：土層、灰黄色粘質土 (10YR4/2)、炭粒・磁碎貝を少量含む
- 10層：黒褐色土層、黒褐色粘質土 (10YR2/2)、磁碎貝を主体とする貝層が40%程度を占める。炭粒を多く含む。焼土粒を含む
- 11層：磁碎貝層、黒褐色粘質土 (10YR2/2)、アサリを主体とする貝層が70%程度を占める。炭粒・磁碎貝を多く含む
- 12・12'層：土層、黒褐色粘質土 (10YR3/1)、魚骨・鯿骨・炭粒・焼土粒を多く含む。磁碎貝を少量含む。地山ブロックを含む。層内に磁碎貝層と見做す層や地山ブロックの集中がある。12'層は粘性がより低く磁碎貝をほとんど含まず、地山ブロックをより多く含む
- 13層：黒褐色土層、黒褐色土 (10YR3/3)、アサリ・アズニシキを主体とする磁碎貝が30%程度を占める。炭粒・焼土・地山ブロックを含む

- 14層：土層、にじみ黄褐色土 (10YR4/3)、地山由来とみられる黒褐色土ブロックが主体
- 15層：磁碎貝層、暗褐色粘質土 (10YR3/3)、アサリを主体とする貝層が70%程度を占める。炭粒・焼土粒を含む
- 16層：黒褐色土層、黒褐色粘質土 (10YR2/2)、磁碎貝を20%程度含む。炭粒・焼土粒を多く含む
- 17層：土層、黒褐色粘質土～粘土 (10YR3/1)、マガロ骨を含む。魚骨・炭粒・焼土粒を多く含む。磁碎貝を極少量含む。土層内 (大木6尺) を多数含む。層内にまとまって出土するものが多い。
- 18層：埋戻土、黒褐色粘質土 (10YR2/2)、小骨・炭化種を含む
- 19層：地山、暗褐色粘質土～粘土 (10YR4/0)、小骨・炭化種を含む
- A1層：土層、黒褐色粘質土 (10YR2/3) 炭粒を多量に含む。魚骨・焼土粒を多く含む。磁碎貝を極少量含む
- A2層：土層、灰黄色土～粘質土 (10YR4/2) 魚骨・焼土・炭粒を多く含む。地山ブロックを含む。磁碎貝を極少量含む
- A3層：暗褐色土～粘質土 (10YR3/4)、魚骨・炭粒・焼土・地山ブロックを多く含む。磁碎貝の少量を多量に含む
- B層：暗褐色土～粘質土 (10YR3/3)、磁碎貝が集中する上層と魚骨層が集中する下層に層別される。炭粒を多く含む。焼土粒、地山ブロックを含む。
- C層：黒褐色粘質土 (10YR2/2)、魚骨層中層と磁碎貝層の層別が顕著な層を含む。炭粒・焼土粒を多く含む。地山粒を含む。褐色や黄褐色土ブロックが集中する層層がある

第5図 磯草貝塚包含層分布図・断面図(2)

(第6・7図)。12～C層は魚骨・獣骨を多く含む土層や破砕貝の薄層などからなり調査区南側に分布する。A2層中には、廃棄単位と考えられる魚獣骨の集中や、焼土ブロックの集中が認められ、B下層からはマガロの椎骨が連結したままの状態ですべて出土している(写真図版2左上)。縄文時代前期～中期の遺物を含み、前期末～中期初頭を主体とする(第8～11図)。

17層は魚骨・獣骨を多く含む土層で全体に分布する。土器一個体がまとまって出土する状況が見られた。縄文時代前期中葉～末の遺物を含む(第12図)。

T3北端部では箱型の攪乱が17～18層まで及んでいた。攪乱部の南壁断面は昭和37年調査区の南西壁断面と酷似しており、当時の調査区の南角部を検出したものとみられる。

【1次調査-T4・5・7・8】

調査対象地北側宅地部分に設定したトレンチで、盛土・表土下から暗褐色を呈する2枚の包含層(Ⅲa、Vb)を検出した(第4図)。縄文時代前期末～中期中葉の遺物を含む(第16図3～6・12～17)。

【1次調査-T6】

調査対象地の中央部、宅地と畑地の段差部に設定したトレンチで、T3の北に隣接する。盛土・表土下にぶい黄褐色を呈する貝層とそれを挟む上下に、それぞれ暗褐色・褐色を呈する包含層を検出した。縄文時代中期前葉の遺物を含む(第16図7～11)。

【2次調査-T1～3】

表土直下が地山で遺構・遺物は発見されなかった。

【2次調査-T4】

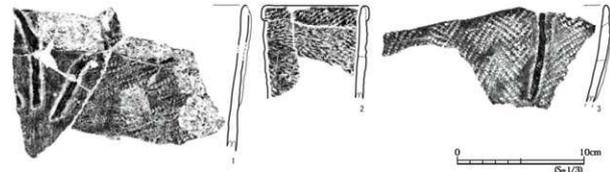
表土下に遺物包含層を検出した。検出面から縄文時代前期後半、中期中葉、晩期の遺物が出土した(第16図18～23)。

4. まとめ

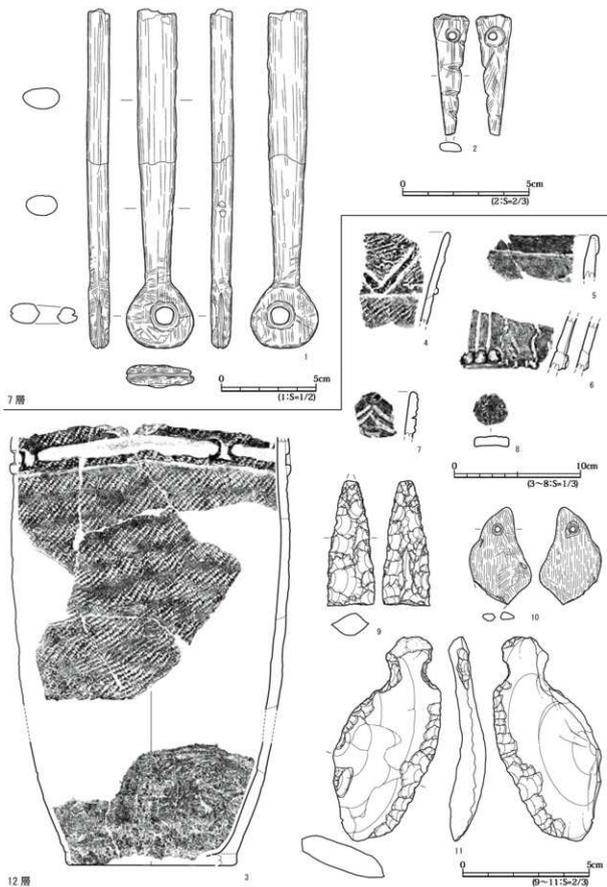
(1) 遺物

①縄文土器

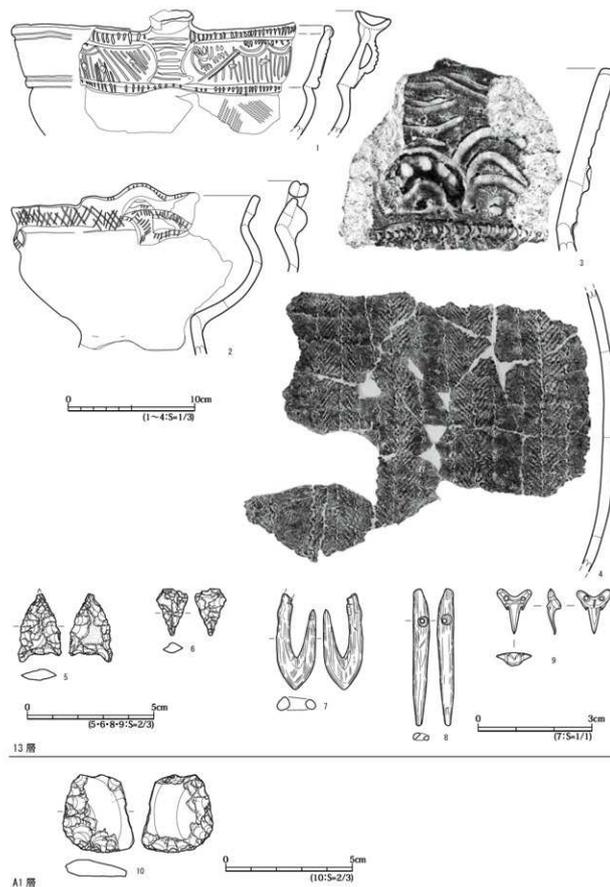
出土した土器の多くは前期～中期の土器で、ほとんどが深鉢である。これらの土器について器形と文様などから大まかな分類を行い、出土状況と年代を示す。



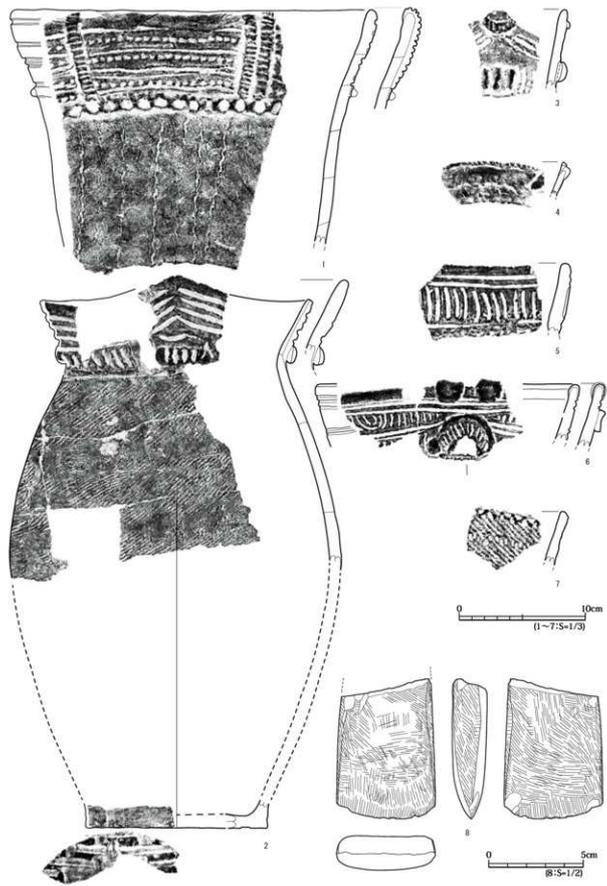
第6図 磯草貝塚T3-7・8層出土遺物



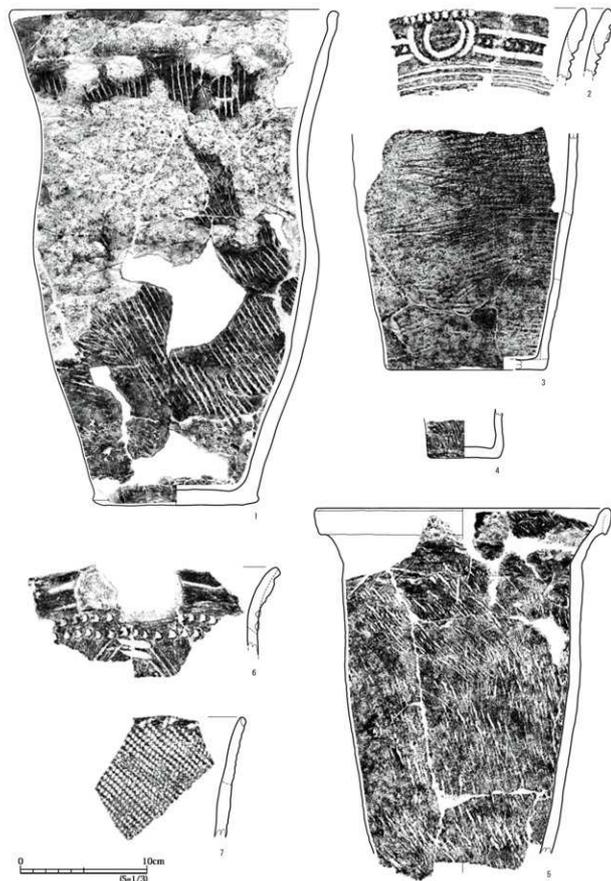
第7圖 磯草貝塚 T3-7・12層出土遺物



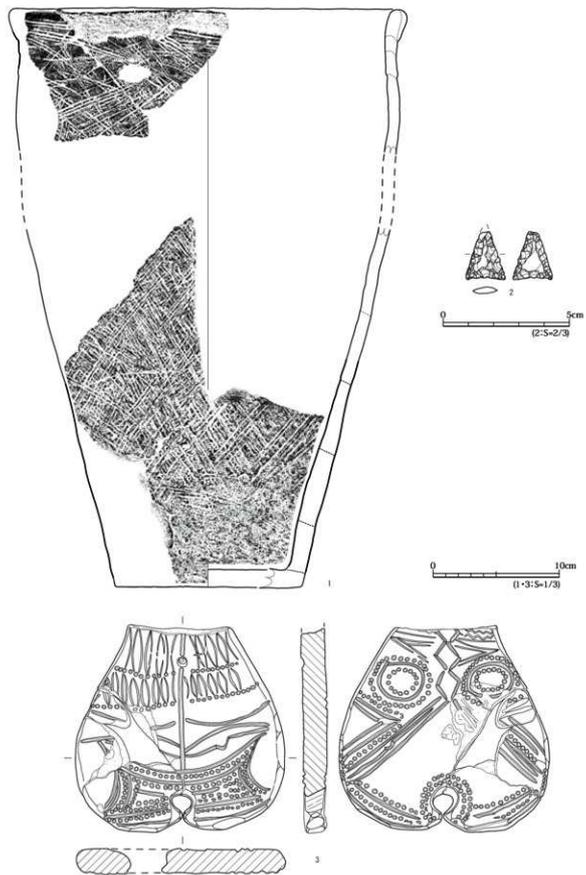
第8圖 磯草貝塚 T3-13・A1層出土遺物



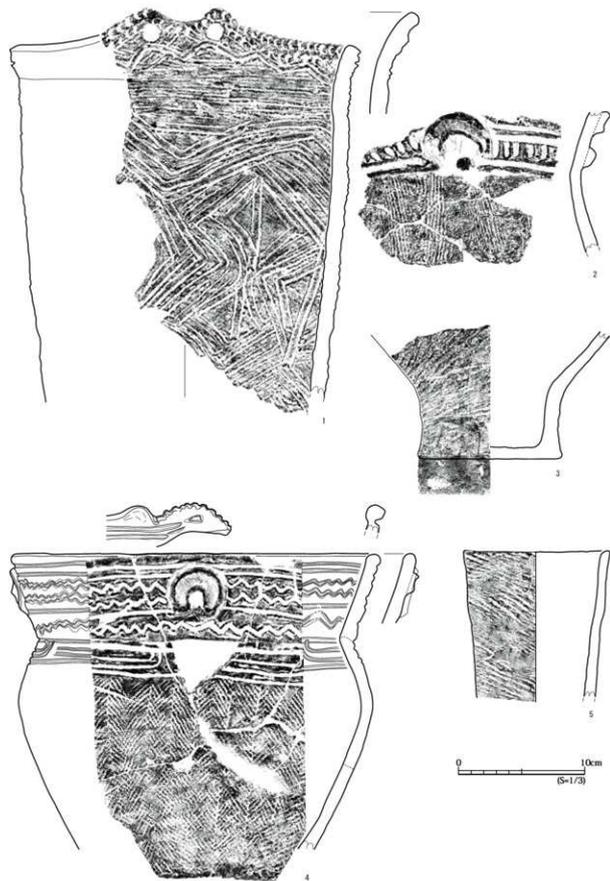
第9圖 磯草貝塚 T3 - A2 層出土遺物



第10圖 磯草貝塚 T3 - A2' · C 層出土遺物



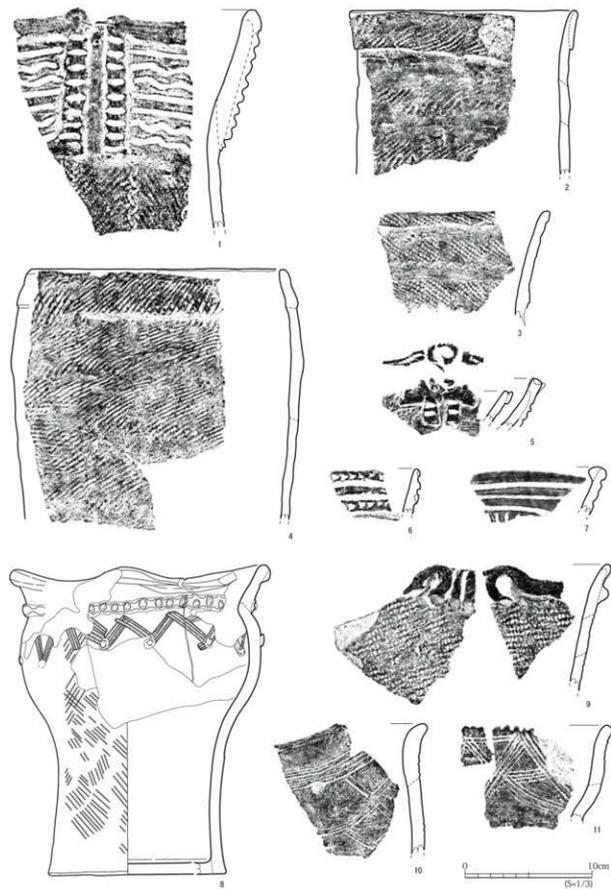
第 11 圖 磯草貝塚 T3 - C 層出土遺物



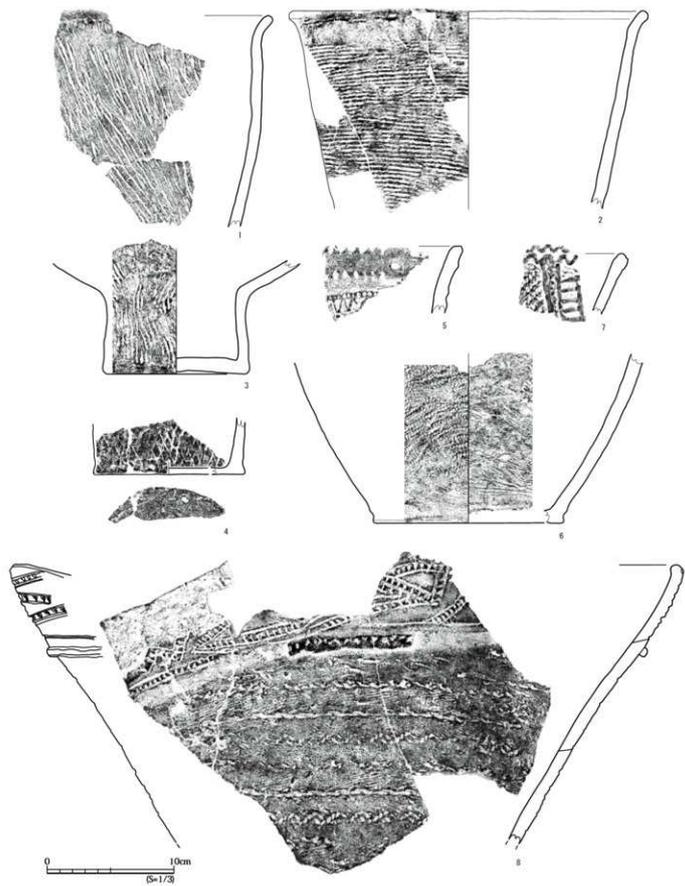
第 12 圖 磯草貝塚 T3 - 17 層出土遺物



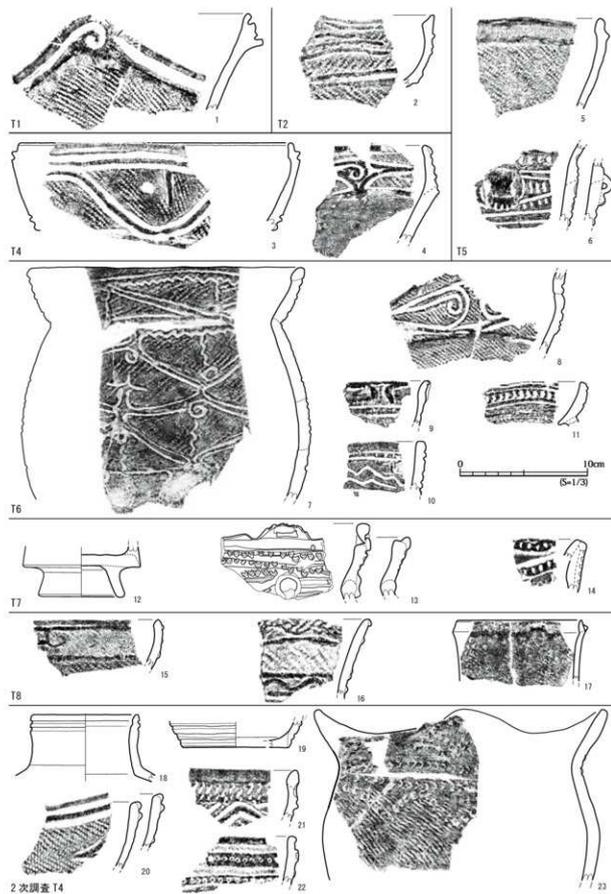
第 13 図 磯草貝塚 T3 - 4 ~ 17 層出土遺物



第 14 図 磯草貝塚 T3 - A1 ~ 17 層出土遺物 (1)



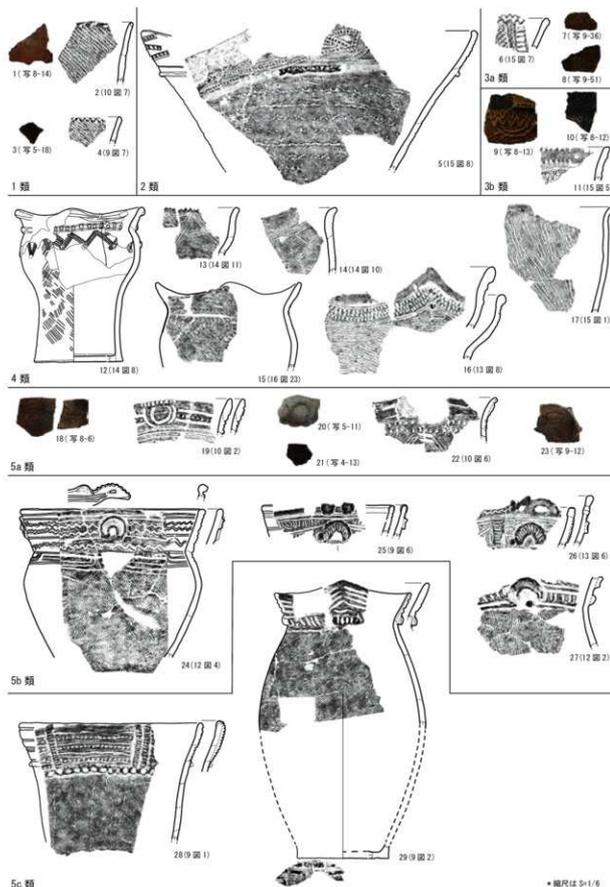
第 15 図 磯草貝塚 T3 - A1 ~ 17 層出土遺物 (2)



第 16 図 磯草貝塚 T1 - 2・4 ~ 8, 2 次調査出土遺物

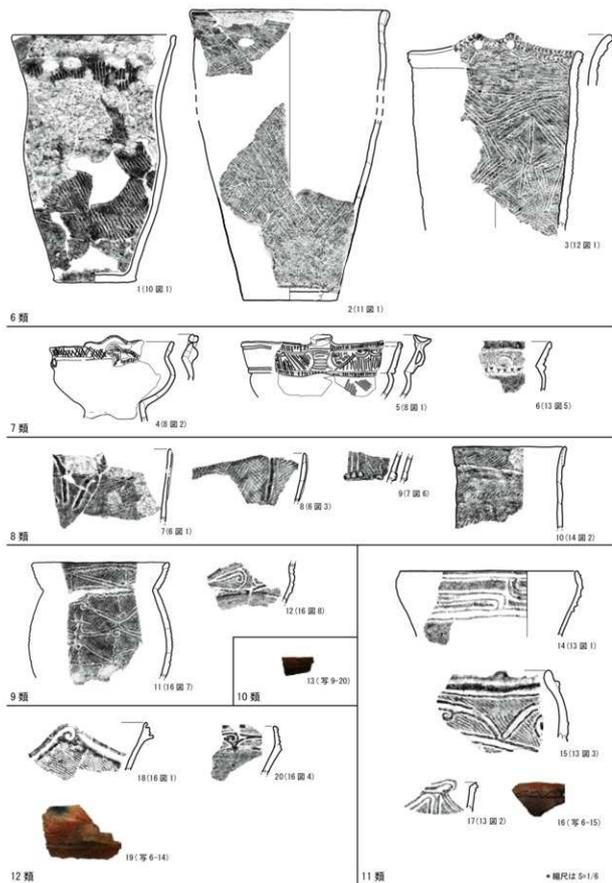
A. 分類

- 1類：胎土に繊維を含むもの。出土量は少なくいずれも小破片である。口縁が垂直ぎみに立ち上がる器形が認められ、地文に結束羽状縄文（第17図1）や斜行縄文が施される。口縁端部に縄圧痕（第17図2）・刺突（第17図3）・押圧（第17図4）が施されるものがある。
- 2類：1点のみ出土した（第17図5）。体部から口縁にかけて大きく開き、口縁大波状の器形で、口頸部に短沈線充填平行沈線による木葉状文、頸部に刺突を伴う隆帯、体部に斜行結節縄文が施される。
- 3類：細い粘土紐貼付による文様が施されるもので少量出土した。口縁が外傾ないし外反して開く器形が認められる。以下のように細分される。
- 3a類：口縁端部や内面に粘土紐貼付による小波状文が施されるものや（第17図6・7）、体部に梯子状、格子状の文様が施されるもの（第17図8）。
- 3b類：体部に粘土紐貼付による鋸歯状や弧状の幾何学文様が施されるもので（第17図9・10）、口縁に上下刻みにより鋸歯状を呈する肥厚帯が巡るものもある（第17図11、写真図版8-10・11）。
- 4類：体上部で膨らみ口縁が短く外反する器形で、体部に半裁竹管状工具による格子状（第17図13-14）、連続山形（第17図12）の文様や、半裁竹管による刺突列（第17図15-16）、捺糸文（第17図14・17）が施されるもの。
- 5類：頸部で括れ、外傾する口縁部に幅広い沈線文・刺突・盲孔などが施されるもの。以下のように細分される。
- 5a類：肥厚した狭い口縁部に幅広い沈線による横位・弧状（第17図18）・円文（第17図19）や盲孔（第17図20）が施される。頸部に半裁竹管による平行沈線や連続刺突が多重に施され、体部に縄文施文のうち半裁竹管による横位・従位・斜位平行沈線文が配され（第17図21・22）、交点にボタン状の貼り付けが施される（第17図23）。
- 5b類：5a類よりも広い口縁部を口縁に沿う及び斜行する沈線で区画し、間に縦位（第17図24・25）・鋸歯状（第17図24・26）の沈線文が施されるもの。馬蹄形や玉状の貼付文（第17図27）により全周を4単位に区画する（第17図24）。4単位の大波状線と平線があり、端部が丸く肥厚するものもある（第17図24・25）。
- 5c類：5b類同様の広い口縁部に口縁に沿う沈線が多重に施され、沈線間に縦位の短沈線や刺突が充填されるもの（第17図28・29）。平線と4単位の大波状線があり、縦位や短い横位の貼り付けにより4単位に区画される。
- 6類：長胴型で頸部が垂直ないしやや外傾、口縁部が外傾する器形で、体部全体に半裁竹管や鋸歯状に見える半裁竹管による沈線文が（器面調整的に）施されるもの（第18図1～3）。
- 7類：体部は球胴状で頸部で括れ段をもち、口縁部が外傾する器形で、口縁部に細沈線による文様が施されるもの（第18図4～6）。口縁突起や橋状突起で4単位に区画する。
- 8類：体上部で屈曲して口縁部が開くが体部から口縁部にかけて外傾しながら直線的に立ち上がる器形で、多くで折返し口縁の形状を呈するもの。口縁部文様帯に縦位・斜位の粘土紐貼付文（第18図7・8）や結節縄文（第18図9）、縦位の羽状縄文（第18図8）が施されるもの、縄文を帯



第17図 縄文土器出土土器分類図(1)

*縮尺は5=1/6



第18図 磯草貝塚出土土器分類図(2)

状に施すもの(第18図10)などがある。

9類: 頸部に括れ口縁が内湾しながら開く器形で、口縁内面に稜を持ち、沈線による横位・弧状・渦巻状・棘状の文様が施されるもの(第18図11・12)。

10類: 口縁部に横位の押任縄文が施されるもの(第18図13)。

11類: 口縁が内湾する器形で、口縁部文様帯を中心に粘土紐貼付による横位・弧状・クランク状の文様が配されるもの(第18図14・15)。2本1組で施される場合が多い。口縁端部には波状(第18図16)・横S字粘土紐貼付文が施される(第18図17)。

12類: 口縁部が外傾し、端部が肥厚する器形や口縁が強く内湾する器形で、主に隆沈線による弧状・渦巻などの文様が施されるもの(第18図18~20)。

B. 出土状況と年代

各類型の出土状況と年代について述べる。なお、1~8類は1次調査T3から主体的に出土し、他の調査区からの出土は少量であることから、T3での状況のみを記す。第3表に各類型の各層における出土状況を示す。

【1~3a類】

少量が層位的まとまりを持たずに出土している。1類は柴田町上川名貝塚(加藤1951)・名取市宇賀崎貝塚(小井川・阿部1980)に類例があり、前期初頭の土川名Ⅱ式に位置付けられる。2類は類例に乏しいが、諸磯a式に類似した木葉状文が施されること、登米市糠塚貝塚(興野1968)に類似するものが認められることから前期中葉の大木3式に位置付けられると推定される。3a類は七ヶ浜町大木開貝塚(八巻1979)などに類例があり前期後葉大木4式に位置付けられる。

【3b・4類】

3b・4類は細分せずに深掘りを行った際の12~18層相当の資料中に多く含まれ、4類については残存率の高い個体も存在する。これらは糠塚貝塚(興野1969)・栗原市嘉倉貝塚(宮城県教育委員会2003)などに類例があり大木5式に位置付けられる。大木5式は前半の5a式と後半の5b式とに細分されて(興野1970)おり、3b・4類の多くは5b式に相当する。また、4類は5b式中の半藪竹管による文様が施される一群に相当するもので、県内の他遺跡と比べこれらの比率が高いことが指摘できる。

【5a類】

5a類はA1層以下を中心に一定量出土しているが、いずれも小破片である。涌谷町長根貝塚(藤沼ほか1969)・七ヶ宿町小梁川遺跡(宮城県教育委員会1986)・嘉倉貝塚(前掲)などに類例があり前期末葉の大木6式に位置付けられる。

【5b・6類】

5b類は17層以上に認められ17層に残存率の高い個体が存在する。6類はA2層~17層上面からいずれも残存率が高い個体が出土している。

5b類はおおよそ長根貝塚第二群土器(藤沼ほか前掲)に相当し、大木6式の中でも新しい段階に位置付けられる。ただし5b類には、上記の土器群に含まれない、横位沈線区画間に鋸歯状の沈線文

第3章 高谷遺跡

遺跡名：高谷遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号59109）

所在地：気仙沼市松崎高谷58-10

調査原因：24年度3次調査：個人住宅建設

24年度4次調査：個人住宅建設（道路）

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査協力：宮城県教育委員会

調査期間：3次 平成24年5月23日～6月12日

4次 平成25年3月21日～3月26日

対象面積：3次 915.42㎡ 4次 141.23㎡

調査面積：3次 235㎡ 4次 141㎡

調査員：3次 鈴木實夫、榎野寛治、豊村幸宏、

三好秀樹・小淵忠司（宮城県支援）

4次 鈴木實夫・西園勝彦



第19図 高谷遺跡の位置

| 写真 図説 | 調査区 | 層位 | 部類 | 型式 | 口径 cm | 高さ cm | 特徴 |
|----------|-----|-----|-----|--------|----------|----------|----|
| 9 | 20 | T6 | 包含層 | 深鉢 | 大木7b | — | — |
| 21 | T6 | 包含層 | 深鉢 | 大木7a-b | — | — | — |
| 22 | T6 | 包含層 | 深鉢 | 大木7a | — | — | — |
| 23 | T6 | 包含層 | 深鉢 | 大木7a | — | — | — |
| 24 | T6 | 包含層 | 深鉢 | 大木7a? | — | — | — |
| 25 | T7 | 2層 | 深鉢 | 大木7b | — | — | — |
| 26 | T7 | 2層 | 深鉢 | 大木6b | — | — | — |
| 27 | T7 | 2層 | 深鉢 | 大木5 | — | — | — |
| 28 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a? | — | — | — |
| 29 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 30 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 31 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 32 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 33 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 34 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a | — | — | — |
| 35 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木8a? | — | — | — |
| 36 | T8 | 包含層 | 深鉢 | 大木4 | — | — | — |
| 43 | T4 | 包含層 | 深鉢 | ? | — | 110 | — |
| 44 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木8b | — | — | — |
| 45 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木8b | — | — | — |
| 46 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木8b? | — | — | — |
| 47 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木8b? | — | — | — |
| 48 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木6a? | — | — | — |
| 49 | T4 | 包含層 | 深鉢 | ? | — | — | — |
| 50 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木5 | — | — | — |
| 51 | T4 | 包含層 | 深鉢 | 大木4 | — | — | — |
| 52 | T4 | 包含層 | 深鉢 | ? | — | — | — |

第7表 磯草貝塚出土土製品観察表

| 遺物 図説 | 写真 図説 | 調査区 | 層位 | 部類 | 最大径 cm | 最大幅 cm | 最大厚 cm | 重量 g | 材質 | 特徴 | |
|----------|----------|-----|----|-----|-----------|-----------|-----------|---------|-----|---------------------|-----------------------------|
| 7 | 10 | 10 | T3 | 12層 | 土師製 | 大木7a | 29 | 26 | 176 | 各部断面片用、口徑に成形、結核状文と並 | |
| 11 | 3 | 10 | T3 | C層 | 軟状土製 | 大木6 | 167 | 169 | 21 | 790 | 断面から断面のみ、表面に中継・貫孔、表面部に沈澱と刺突 |

第8表 磯草貝塚出土石器観察表（図示資料）

| 遺物 図説 | 写真 図説 | 調査区 | 層位 | 部類 | 最大径 cm | 最大幅 cm | 最大厚 cm | 重量 g | 材質 | 特徴 | |
|----------|----------|-----|-----|-------|-----------|-----------|-----------|---------|---------|--------------------|--------------------|
| 7 | 9 | 10 | T3 | 12層 | 尖頭石 | 4.95 | 1.86 | 1.11 | 106 | 両面 | 穂葉状、基部平頭?先端部平頭? |
| 10 | 10 | T3 | 12層 | 垂磨品 | 3.86 | 2.34 | 0.44 | 3.8 | ホルンフェルス | — | |
| 11 | 10 | T3 | 12層 | 石核 | 7.3 | 4 | 1.36 | 365 | ホルンフェルス | 縦長、先端部鈍 | |
| 8 | 5 | 10 | T3 | 12層 | 石核 | 11.1 | 1.66 | 0.57 | 2.9 | 両面 | 石核に磨製した石片のNo.45で確認 |
| 6 | 10 | T3 | 13層 | 石核 | 1.85 | 1.19 | 0.49 | 0.7 | 両面 | 石核に磨製した石片のNo.46で確認 | |
| 10 | 10 | T3 | 13層 | 不定形石片 | 3.08 | 2.49 | 0.73 | 6.4 | 両面 | スライスナイフ(縦磨品) | |
| 9 | 8 | 10 | T3 | 13層 | 磨石 | 7.36 | 5.2 | 1.81 | 130 | ホルンフェルス | 基部平頭 |
| 11 | 2 | 10 | T3 | C層 | 石核 | 1.81 | 1.64 | 0.38 | 0.7 | 両面 | 先端部、基部平頭No.39で確認 |

第9表 磯草貝塚出土石器観察表（写真のみ掲載）

| 写真 図説 | 調査区 | 層位 | 部類 | 最大径 cm | 最大幅 cm | 最大厚 cm | 重量 g | 材質 | 特徴 | |
|----------|-----|-----------------|---------|-----------|-----------|-----------|---------|-----|---------------|---|
| 10 | 14 | T3 | 8層 | 石核 | 2.7 | 1.7 | 0.88 | 1.7 | 褐色角閃 | — |
| 7 | T3 | 12層 | 磯草細面軟状土 | 4.51 | 2.16 | 0.66 | 4.9 | 両面 | 両面がごぼり状 | |
| 11 | T3 | 17層 | 両面加工石部 | 3.6 | 5.6 | 1.8 | 36.9 | 両面 | 両面の両面 | |
| 13 | T3 | 17層 | 両面加工石部 | 14.53 | 4.1 | 2.61 | 191.7 | 両面 | 両面の両面 | |
| 14 | T3 | 17層 | 両面加工石部 | 13.4 | 3.7 | 4.2 | 365 | 両面 | 両面の両面 | |
| 16 | T3 | 7a+b層 (貝塚上層) | 磨石 | 10.1 | 9.3 | 3.5 | 450 | 両面 | 両面に磨石→磨れ | |
| 17 | T3 | 7a層 (T3) | 磨石 | 10.0 | 8.6 | 6.8 | 795 | 両面 | 両面に磨石→磨れ | |
| 18 | T3 | 7a層 (T3) | 磨石 | 7.6 | 6.0 | 3.5 | 252 | 両面 | 両面に磨石 | |
| 19 | T3 | 包含層 | 磨石 | 13.9 | 7.2 | 4.7 | 715 | 両面 | 片面に磨石 | |
| 20 | T8 | 包含層 | 磨石 | 9.8 | 7.7 | 3.2 | 380 | 未測定 | — | |
| 21 | T8 | 包含層 | 磨石 | 7.3 | 5.88 | 2.47 | 265.7 | 両面 | 長小形粒、扁平、両面に磨石 | |
| 22 | T8 | 包含層 | 磨石 | 6.12 | 6.7 | 3.9 | 233.2 | 両面 | 縦長→磨れ、扁平面に磨石 | |

第10表 磯草貝塚出土骨角器観察表

| 編号 図説 | 写真 図説 | 調査区 | 層位 | 部類 | 最大径 cm | 最大幅 cm | 最大厚 cm | 重量 g | 材質 | 特徴 | |
|----------|----------|-----|-------|-----|-----------|-----------|-----------|---------|-------------|---------------|---------------------------|
| 7 | 1 | 10 | T3 | 17層 | 骨製 | 17.99 | 3.56 | 1.14 | 42.5 | 両面 | 先端部欠損、基部の中心に貫通孔1・断面に溝状の痕跡 |
| 2 | 10 | T3 | 7a+b層 | 垂磨品 | 4.84 | 1.39 | 0.6 | 2.4 | ホルンフェルス・角 | 両面欠損、貫通孔1、狭り3 | |
| 8 | 7 | 10 | T3 | 13層 | 骨針 | 3.53 | 1.54 | 0.72 | 2.2 | ホルンフェルス・角 | ホト1部欠損、カシメなし |
| 8 | 10 | T3 | 13層 | 骨針 | 5.45 | 0.63 | 0.44 | 1.4 | 哺乳類骨不明・部分不明 | 哺乳類骨不明・部分不明 | |
| 9 | 10 | T3 | 13層 | 垂磨品 | 1.18 | 0.85 | 0.34 | 0.1 | ホルンフェルス・角 | 貫通孔1 | |

1. 調査に至る経緯

高谷遺跡は、気仙沼湾に向かって東流する面瀬川の北側にある東西方向に延びる丘陵部南斜面、南東へ向かって張り出す箇所（第19図）に位置する（第19図）。縄文時代の散布地として登録されている。遺跡範囲の南西部ではこれまで5次に渡る調査が行われ、丘陵根尾上には縄文時代中期末～後期初頭の土坑群が、北東斜面を中心に遺物包含層が分布することが分かっている。

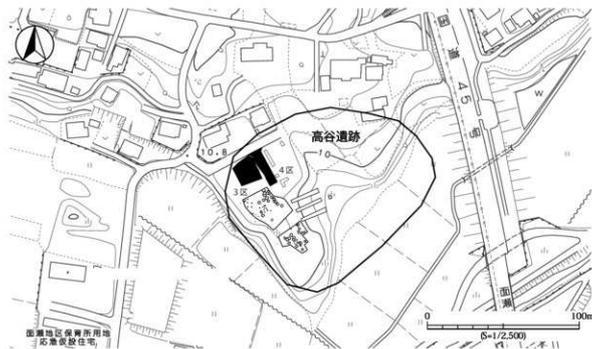
今回の報告は24年度3・4次調査についてである。個人住宅建築及び私道建設に伴うもので、対象地は遺跡範囲の北東部、南東へ向かって張り出す枝段木の付け根に当たる箇所である（第20図）。確認調査を行ったところ、土坑及びピットを検出した。工法上、遺構の現状保存は難しいため、本発掘調査を実施した。

2. 調査の概要

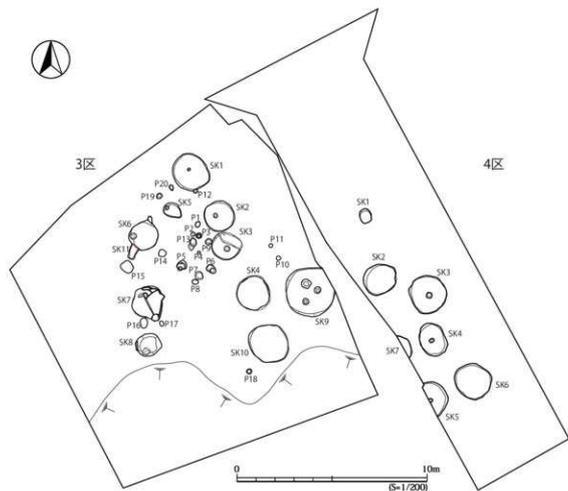
住宅部分に3区、私道部分に4区を設定した（第21図）。遺構はいずれも地山面で検出した。3区では土坑10基、ピット22基を検出し、縄文土器14箱、石器35箱が出土した。3区の南側は掘削が及んでいない。4区では土坑7基、ピット3基を検出し、縄文土器8箱、石器11箱が出土した。なお、遺構番号は区ごとに付している。

3. 調査の成果

(1) 3区



第20図 高谷遺跡調査範囲



第21図 高谷遺跡遺構配置図

【SK1 土坑】

平面形は長軸2.1m、短軸1.9mの楕円形、底面は平坦で中心寄りに断面皿状の深さ5cmのピットをもつ。残存深さは24cmで壁は直角気味に立ち上がる。堆積土は自然堆積で上層の1・3層に遺物を多く含む。土器は堆積土中から小破片が出土した。石器は堆積土中から石鏃1点(第24図1)、剥片1点、磨石3点(写真図版16-49)、棒状の敲石1点が出土した。

【SK2 土坑】

平面形は直径1.6mの円形、底面は平坦で中心付近にピットをもつ。残存深さは30cmで壁は直角気味に立ち上がる。堆積土は地山土を主体とする層を挟んでおり崩落土を含む自然堆積とみられる。底面～底面直上(5～6層)から礫や礫石器が40点以上出土した(写真図版12右)。明確な使用痕をもつものは15点で、石皿(写真図版17-6)ないし台石が2点、砥石(第24図5)が1点、磨・敲・凹石類(写真図版16-50・53・55・56)が12点である。ほかに石鏃(第24図4)と剥片が1点ずつ出土した。土器は深鉢(第24図3)と壺(第24図2)が堆積土中から出土した。第24図2は頸部と体下部に橋状の把手が付き体部に曲線的な磨消縄文が施されるもの、第24図3は頸部に区画沈線文が巡るもので、いずれも縄文時代中期末の大木10式の特徴をもつ。

【SK3 土坑・P21】

平面形は直径1.6mの不整形円形、底面は平坦である。残存深さは20cmで壁は直角気味に立ち上がる。堆積土は地山土を主体とする層が広範囲に厚みをもって堆積しており崩落土を含む自然堆積とみられる。より新しいピットP21が底面以下まで達している。遺物は縄文土器小破片、剥片が出土した。

【SK4 土坑】

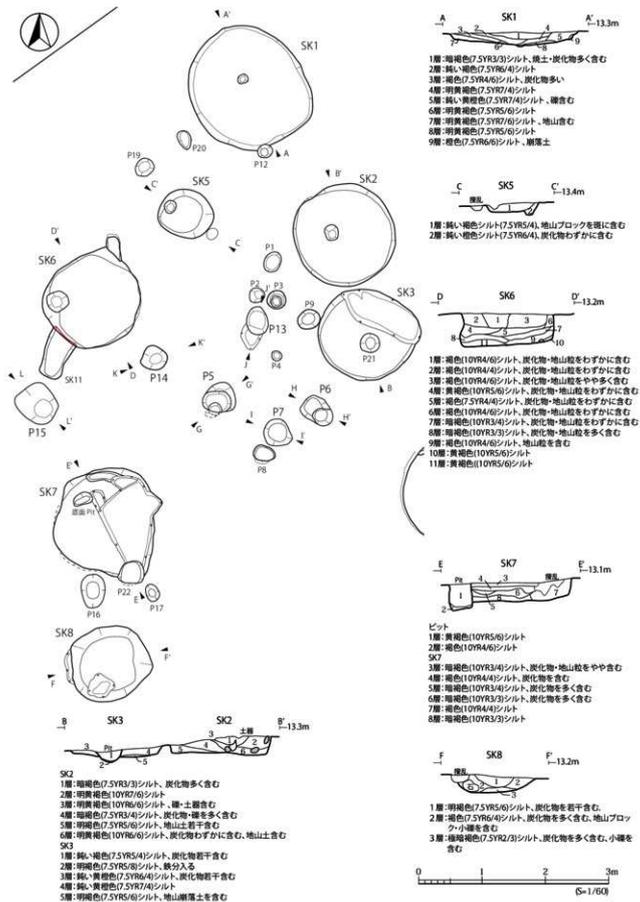
平面形は直径1.8mの円形、底面は平坦で壁際の一部に溝が巡る。残存深さは75cmと最も深く、壁は鋭角に立ち上がりオーバーハングシラスコ状を呈する。堆積土は壁崩落土を含む自然堆積で、大木の層で炭化物を含む。1～4層からは土器が多く出土した。縄文時代中期中葉の大木8～中期末の大木10式の特徴をもつものがあり、大木10式の特徴をもつものを主体とする(第24図6～8)。第24図9は大木10式の深鉢の下半部で隆帯区画の磨消縄文が施されている。石器は堆積土中から石鏃破損品2点、石匙1点(第24図10)、剥片・チップ20点以上、石皿2点(写真図版17-7)、磨石・敲石類19点(写真図版16-57)が出土した。石皿には被熱が認められる。また7層中から径30cmの球状礫が出土した。

【SK5 土坑】

小型、平面形は直軸0.9m、短軸0.8mの楕円形、底面は皿状で北西壁際にピットをもつ。残存深さは20cmである。堆積土は地山ブロックを斑らに含む様な土で、埋め戻されているとみられる。遺物は2層(底面ピット)から石鏃、二次加工ある剥片、剥片が1点ずつ出土した。

【SK6・SK11 土坑】

SK6は平面形は直径1.6mの円形、底面は平坦でやや傾斜し、西壁際に径35cm、深さ10cmのピットをもつ。残存深さは54cmで、壁は直角に立ち上がり、一部オーバーハングする。堆積土は崩落土を含む自然堆積である。縄文土器破片が多く出土しているものの残存状況が悪く、詳細のわかるも



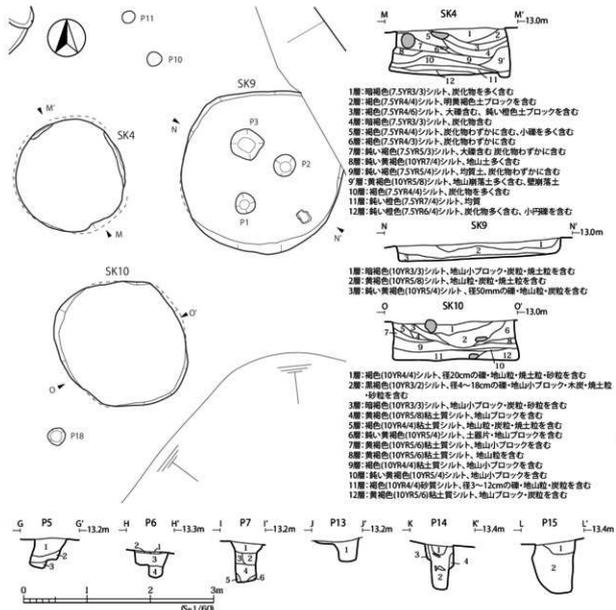
第22図 高谷遺跡3区遺構平面図・断面図(1)

のはない。石器は石鏃3点(第24図11・12)、石錐1点(写真図版16-19)、両面加工石器1点、二次加工剥片1点、微細剥離痕のある剥片1点(第24図13)、石核1点、剥片・チップ30~40点、磨石・敲石5点、石棒1点(第24図14)が堆積土中から出土した。

SK11はSK6より古く、溝状を呈する土坑で落し穴の可能性はある。

【SK7土坑・P22】

SK7は平面形は直径18mの不整形円形、残存深さは30cmで壁は直角に立ち上がり、一部オーバーハンクする。底面は平坦で、一部壁際に溝が巡り、北寄りに長軸30cm、深さ18cmのピットをもつ。堆積土は炭化物を多く含む暗褐色土で、壁面落土を含む自然堆積である。遺物は堆積土中から、壺型の縄土器で大木10式とみられるもの(第24図15)、石器は石鏃(破損品を含む)4点(第24図16)、石皿2点(写真図版17-8)、磨石3点のほか二次加工剥片、剥片・チップが、底面から棒状石



第23図 高谷遺跡3区遺構平面図・断面図(2)

製品（第24図17）が出土した。

P22はSK7より新しいピットである。垂直に掘り込まれ、残存深さは40cmで土坑底面以下に達する。堆積土中から剥片・チップが出土した。

【SK8 土坑】

小型で、平面形は直径1.3mの不整形円形、壁の立ち上がり緩く、底面は丸みを帯びる。残存深さは30cmで。堆積土は炭化物や地山アブロック・小礫を含み明～極暗褐色土で自然堆積である。底面西壁際から径25cm程の円礫が出土した。

【SK9 土坑】

平面形は直径2.6mの円形、残存深さは25cmで、堆積土は自然堆積である。壁は垂直に立ち上がり一部オーバーハングする。底面は平坦でわずかに傾斜し、P1～3のピット3基が検出された。本土坑にとまうことが確認できたのはP1である。P2はP1と規模・堆積土が近似し伴う可能性がある。P3は堆積土中に土坑堆積土1層と同様の黒色土がやや混じり、規模も大きいことから土坑よりも新しいピットの可能性がある。

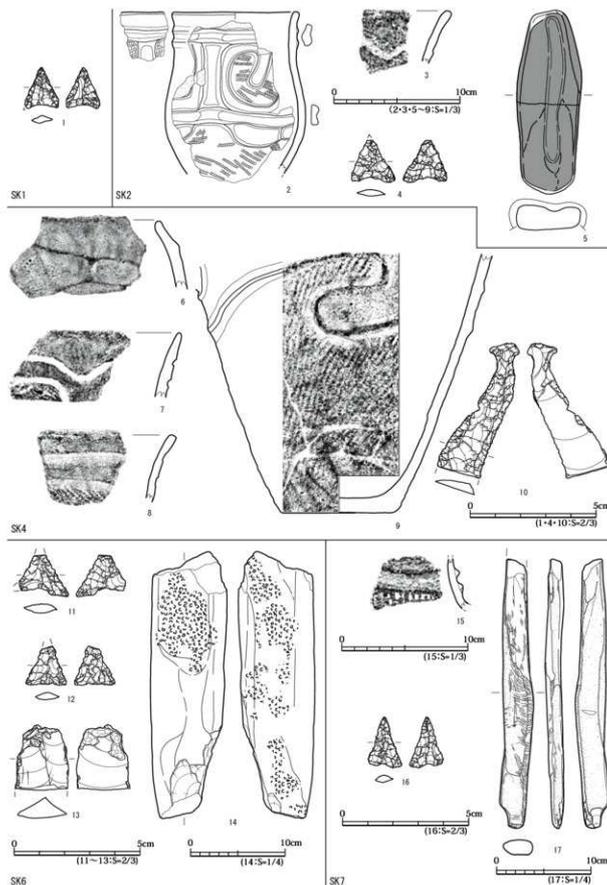
遺物は主に堆積土中から出土した。比較的多くの縄文土器片が出土したが残存状況が悪く詳細がわかるものは少ない。大木10式～後期初頭の門前式の特徴を持つものがみられ、第25図1は頸部に鎖状隆帯が巡り体部にO字状とみられる沈線区画文が配されるもので門前式の特徴をもつ深鉢である。石器は、堆積土中から剥片石器を中心に多く出土し、石鏃14点（第25図2～6、写真図版16-12）、石鏃未製品とみられる小型両面加工石器3点、石錐5点（第25図7・8、写真図版16-22・23）、尖頭器2点（写真図版16-28・29）、石籠(?)1点、二次加工のある剥片7点（第25図9）、微細剥離痕のある剥片7点（第25図10）、剥片・チップ約300点、磨石類5点（写真図版16-51・54）が出土した。また、底面直上からは方形で四脚の付く石皿1点（第25図11）が出土した。

【SK10 土坑】

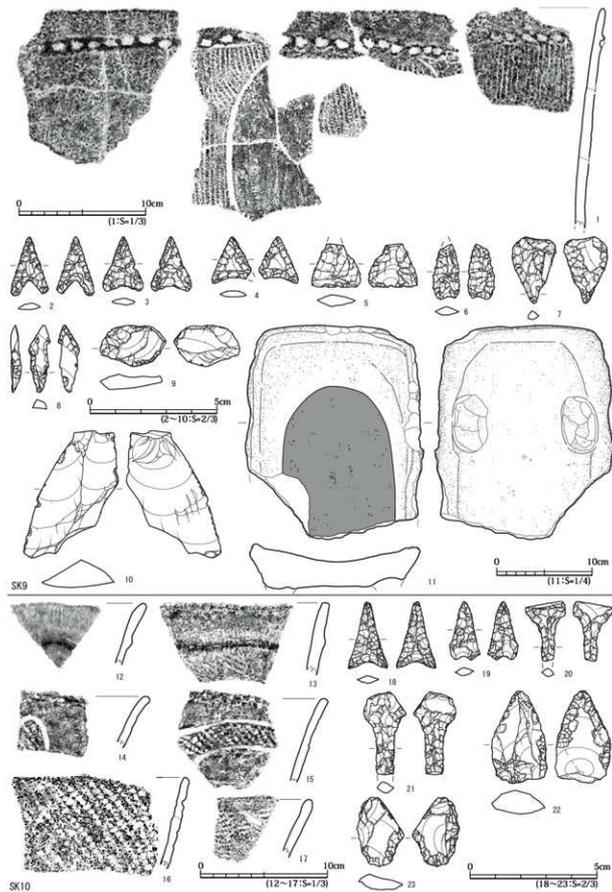
平面形は長軸2.3m、短軸2.0mの楕円形、残存深さは68cmである。壁は直角～鋭角に立ち上がり、一部オーバーハングする。堆積土は壁崩落土を含む自然堆積である。底面は平坦でほぼ水平である。遺物は堆積土中から多く出土し、黒色土層の2層出土の割合が高い（第25図12～17）。土器はいずれも深鉢である。第25図12～15は隆帯と沈線区画の曲線のな磨消縄文が施され、大木10式の特徴をもつものである。石器は石鏃4点（第25図18・19、写真図版16-15）、石錐2点（第25図20・21）、尖頭器1点（第25図22）、楔形石器1点（第25図23）、小型両面加工石器1点、二次加工剥片1点、石核1点（写真図版16-34）、石皿4点、磨石類15点（写真図版16-52）、剥片・チップ約30点が出土した。

【ピット】

22基検出した。SK3-6間周辺に集中しており、深さ10～70cmのものがある。これらのうちP5-6・7・13・14・15は垂直に掘り込まれ柱穴の可能性が高いと考えられる。柱痕跡は確認できず、いずれも柱が抜き取られたものと考えられる。建物としての組み合わせ、時期などは不明である。遺物は石鏃や凹石など少量の石器が出土した。



第24図 高谷遺跡3区SK1・2・4・6・7出土遺物



第25図 高谷遺跡3区SK9・10出土遺物

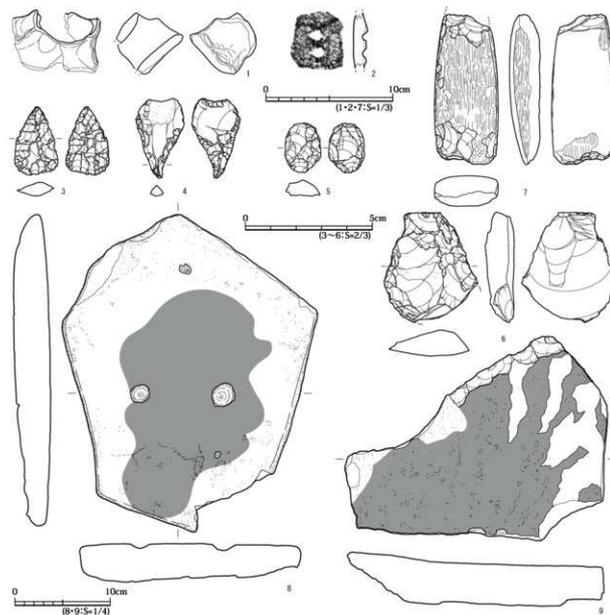
(2) 4区

【SK1 土坑】

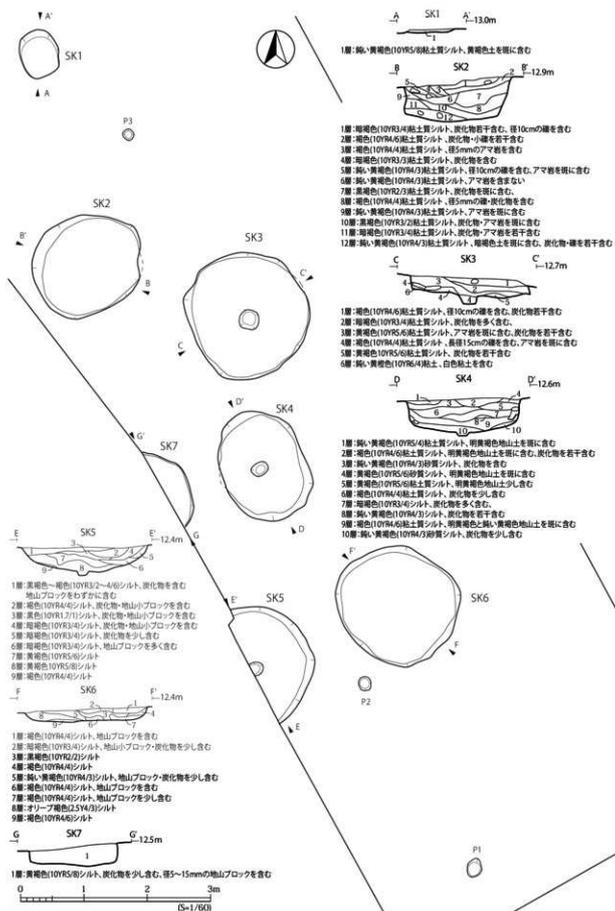
小型の土坑で底面付近のみ残存している。底面は平坦である。遺物は出土していない。

【SK2 土坑】

平面形は長軸1.9m、短軸1.6mの楕円形、底面は平坦で中央が若干くぼむ。残存深さは70cmで、壁は直角に立ち上がり一部オーバーハングする。堆積土は自然堆積である。遺物は堆積土中から縄文土器と石器が出土した。第26図1は注口の付く深鉢の注口部で鎖状隆帯が施される。第26図2は深鉢の体部で、区画隆帯の一部に2個1対の刻みをもつ。ともに門前式の特徴をもつものである。石器は石鏃2点(第26図3)、石錐2点(第26図4、写真図版16-27)、尖頭器1点(写真図版16-31)、削器1点(第26図6)、楔形石器1点(第26図5)、二次加工剥片1点、磨製石斧1点(第26図7)、



第26図 高谷遺跡4区SK2出土遺物



第27図 高谷遺跡4区遺構平面図・断面図

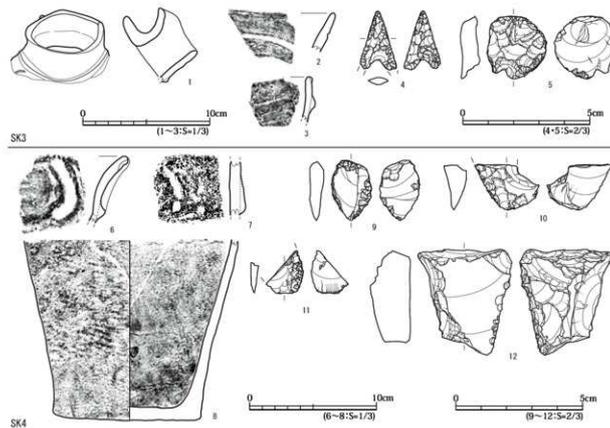
石皿2点(第26図8・9)、磨石3点(写真図版1658・59)、剥片・チップが出土した。また、炭化した堅果類が1～5層から4点、10・11層から8点出土した。

【SK3 土坑】

平面形は直径2.0mの円形である。残存深さは40cmで、壁は直角に立ち上がり一部オーバーハングする。底面は平坦で若干傾斜する。中央に径35cm、深さ15cmで垂直に掘り込まれたピットをもち、堆積土中に大きめの土器破片が入る。堆積土は締まりのある粘土質シルトや粘土で、上層は暗褐色～褐色土で土器片を多く含み、下層は褐色～鈍い黄褐色でアマ岩を含んでおり、自然堆積である。遺物は堆積土中から縄文土器と石器が出土した。土器は1層から多く出土し、注口付き深鉢(第28図1)や沈線・隆帯区画の磨消縄文が施されるもの(第28図2・3)が認められ、大木10式の特徴をもつ。石器は石鏃2点(第28図4)、石砲破損品1点、二次加工剥片5点(第28図5)、石棒破損品1点、剥片・チップである。また底面から円礫数点が出土した。

【SK4 土坑】

平面形は1.8m、短軸1.4mの楕円形である。残存深さは60cmで、壁は下端で丸みを帯びながら垂直に立ち上がり一部オーバーハングする。底面は中央にむかってやや窪み、中央に長径30cmの楕円形で深さ5cmの浅いピットをもつ。堆積土は締まりのある褐色～黄褐色の粘土質～砂質シルトで自然堆積である。遺物は堆積土中から縄文土器と石器が出土した。土器は深鉢で、口縁部に中央に沈線をもち隆帯が施されるもの(第28図6)、また隆帯の交点に刺突が施されるもの(第28図7)で、



第28図 高谷遺跡4区SK3・4出土遺物

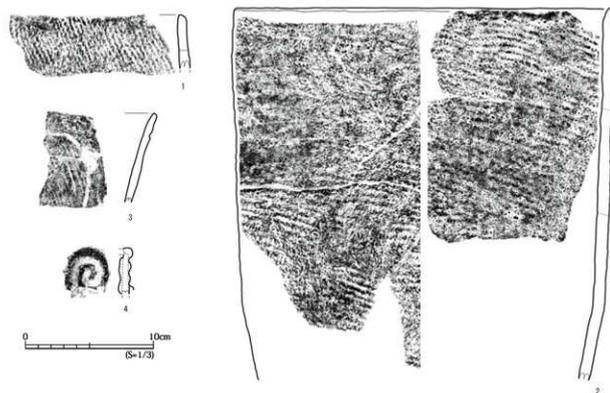
門前式の特徴をもつ。石器は二次加工剥片6点(第28図9~12)、磨石3点である。底面付近の9・10層からは炭化した堅果類が1点出土した。また底面西壁際からは20点以上の礫が出土した。

【SK5 土坑】

西半部が調査区外にあり平面形は直径19mの円形ないし楕円形である。残存深さは50cmで、壁の立ち上がりは緩く、底面は中央にむかってやや窪み、中央に長径20cm以上の楕円形で深さ5cmの浅いピットをもつ。堆積土は黒色~黄褐色の粘性のあるシルトで自然堆積である。遺物は堆積土中から縄文土器と石器が出土した。土器は深鉢で(第29図1~3)、口縁部突起直下にボタン状貼付文、口縁部以下に沈線による直線的区画文が配されるもの(第29図1)、円文と内部に刺突充填されるもの(第29図2)があり、門前式の特徴を持つ。石器は石鏃(写真図版16-18)、スクレイパー(第29図4)、磨製石斧(第29図5)、磨石、敲石(第29図6)が1点ずつ、ほかに剥片・チップがある。

【SK6 土坑】

平面形は長軸2.0m、短軸1.7mの楕円形である。残存深さは20cmで、壁は下端で丸みを帯びながら垂直に立ち上がる。底面は水平で、北西の壁際からは深鉢の口縁一部の大破片(第30図2)が出土した。また堆積土中から出土した土器は(第30図1~4)、体上部に沈線区画の曲線的な磨消縄文(縷糸文)が配された大木10式の特徴をもつ深鉢(第30図3)、渦巻文が施された深鉢の口縁突起部で大木8b式の特徴をもつもの(第30図4)などである。石器としてはスクレイパー破損品、二次加工剥片、微細剥離痕剥片(写真図版16-45)、磨石(写真図版17-5)が1点ずつ、他に剥片・チップが出土した。



第30図 高谷遺跡4区SK6出土遺物

【SK7 土坑】

大部分が調査区外で平面形は円形ないし楕円形と見られる。残存深さは34cmで、壁は直角に立ち上がる。底面は水平である。堆積土は地山ブロックを含む一様な土で、埋め戻されているとみられる。堆積土中から磨石1点が出土した。

【ピット】

3基検出した。いずれも、径が20~30cm、深さ10cmほどの小規模なもので調査区内に散在する。遺物は出土していない。

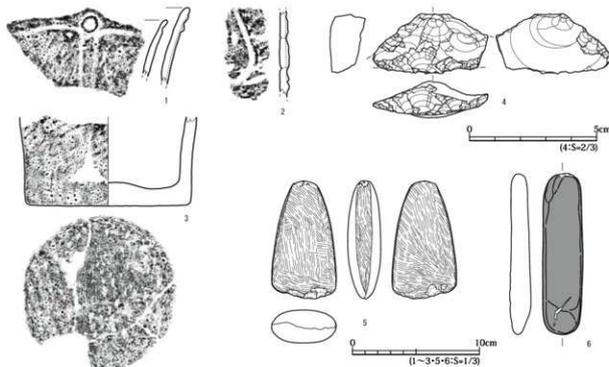
4. まとめ

(1) 土坑

小型のもの(3区SK5、SK8、4区SK1)と大型のもの(それら以外)にわかれる。大型のものは、平面形は円形ないし円形に近い楕円形で、長軸1.6~2.7mで多くは2.0m以下である。壁は垂直ないし鋭角に立ち上がり、オーバーハングするものも多く、底面は概ね平坦で水平に近い。堆積土下層は地山土由来とみられる褐色~黄褐色土であり、壁の崩落が想定される。以上から、これらはフラスコ状を呈する貯蔵穴と考えられる。

これらには底面に施設を持つものと持たないものがある。底面施設にはピットと周溝があり、ピットは中央に1基、壁寄りに1基、平面規模の大きいものにおいては複数認められる場合がある。周溝は2基で部分的に認められた。また、底面に多数の礫が出土する状況が2基で認められた。

堆積土中からは、縄文時代中期末の大木10式や後期初頭の門前式の特徴をもつ土器が主体的に出



第29図 高谷遺跡4区SK5出土遺物

土し、わずかに中期中葉の土器が出土した。土坑同士には重複もないことから、これらは縄文時代中期末から後期初頭にかけてのほぼ同時期のものと考えられる。

3区SK11は溝状を呈する土坑で落とし穴の可能性もある。SK6と重複しこれより古いことから、貯蔵穴群より古い時期の溝構である。

(2) ビット

貯蔵穴群と同じ区域に分布し、貯蔵穴より新しいものが複数認められることから、貯蔵穴群より新しい時期のビット群と考えられる。また、3区については柱穴と考えられるものが含まれ、分布にもまとまりがあることから、建物跡の可能性もある。

第11表 高台遺跡出土土器一覧表

| 区 | 遺構名 | 平面形 | 長軸 (mm) | 短軸 (mm) | 深さ (cm) | 特 徴 |
|----|-------|--------|------------|------------|------------------------|------------------------|
| 3区 | SK 1 | 楕円形 | 21 | 1.9 | 24 | 底面中央付近にビット |
| | SK 2 | 円形 | 1.6 | 30 | — | |
| | SK 3 | 不整形円形 | 1.6 | 30 | — | |
| | SK 4 | 円形 | 0.9 | 75 | 底面に埋溝 | |
| | SK 5 | 楕円形 | 6.9 | 0.8 | 20 | 小窓 |
| | SK 6 | 円形 | 1.6 | 34 | 底面にビット | |
| | SK 7 | 不整形円形 | 1.8 | 30 | 底面にビット・埋溝 | |
| | SK 8 | 不整形円形 | 1.3 | 30 | 小窓 | |
| | SK 9 | 円形 | 2.7 | 25 | 底面にビット2基分 | |
| | SK 10 | 楕円形 | 2.3 | 2 | 69 | — |
| | SK 11 | 溝状 | 0.7以上 | 0.5 | — | SK6より古い。落とし穴か。 |
| 4区 | SK 1 | 楕円形 | 0.8 | 0.6 | 5 | — |
| | SK 2 | 楕円形 | 1.9 | 1.6 | 70 | — |
| | SK 3 | 円形 | 20 | 40 | 底面中央に円形のビット。底面に円陣状点が出土 | |
| | SK 4 | 楕円形 | 1.8 | 1.4 | 60 | 底面中央に円形のビット。底面に埋溝が多数の埋 |
| | SK 5 | 楕円形(白) | 1.9 | 7 | 50 | 底面中央に円形のビット。西半部が調査区外 |
| | SK 6 | 楕円形 | 2.0 | 1.7 | 30 | — |
| | SK 7 | 楕円形(白) | 13以上 | 7 | 34 | 大部分が調査区外 |

第12表 高台遺跡出土縄文土器観察表 (図説資料)

| 遺物 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 型式 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 | | |
|----------|-------|-------|-------|-------|--------|------------|------------|------------|-----------|----|-----|---|---|
| 24 | 15-1 | 3区 | SK2 | 埋2-3層 | 甕 | 大木10 | — | — | — | — | — | — | |
| | 15-2 | 3区 | SK2 | 埋2-3層 | 甕 | 大木10 | — | — | — | — | — | — | |
| | 6 | 15-3 | 3区 | SK4 | 埋2層 | 大木10 | — | — | — | — | — | — | |
| | 7 | 15-4 | 3区 | SK4 | 埋3層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | — |
| | 8 | 15-5 | 3区 | SK4 | 埋3層 | 深鉢 | 大木9-10 | — | — | — | — | — | — |
| | 9 | 15-6 | 3区 | SK4 | 埋3層 | 深鉢 | 大木10 | — | 70 | — | — | — | — |
| | 15-10 | 3区 | SK7 | 中-7層 | 甕 | 大木10 | — | — | — | — | — | — | |
| | 15-11 | 3区 | SK9 | 1層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | — | — |
| | 12-13 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | 大木9-10 | — | — | — | — | — | — | — |
| | 13 | 15-14 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | — |
| | 14 | 15-15 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | — |
| | 15 | 15-16 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | 大木9-10 | — | — | — | — | — | — |
| | 16 | 15-17 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | — |
| 17 | 15-18 | 3区 | SK10 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | — | |
| 25 | 1 | 15-20 | 4区 | SK2 | 5層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 2 | 15-21 | 4区 | SK2 | 1層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 3 | 15-22 | 4区 | SK3 | 埋土1層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | |
| | 4 | 15-23 | 4区 | SK3 | 埋土1層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | |
| | 5 | 15-24 | 4区 | SK3 | 埋土1層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | |
| | 6 | 15-25 | 4区 | SK4 | 3-6-8層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 7 | 15-26 | 4区 | SK4 | 3-6-8層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 8 | 15-27 | 4区 | SK4 | 3-6-8層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 9 | 15-28 | 4区 | SK5 | 1-5層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 10 | 15-29 | 4区 | SK5 | 1-5層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — | |
| | 11 | 15-30 | 4区 | SK5 | 1-5層 | 深鉢 | 門前 | — | — | — | — | — | |
| | 12 | 15-31 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| | 29 | 1 | 15-32 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — |
| 2 | | 15-33 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 3 | | 15-34 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 4 | | 15-35 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 5 | | 15-36 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 6 | | 15-37 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 7 | | 15-38 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 8 | | 15-39 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 9 | | 15-40 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 10 | | 15-41 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 11 | | 15-42 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |
| 12 | | 15-43 | 4区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — | |

第13表 高台遺跡出土縄文土器観察表 (写真のみ掲載)

| 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 型式 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 高さ (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 |
|----------|-----|----|------|-----|------|------------|------------|------------|-----------|----|-----|
| 13 | 1 | 3区 | SK4 | 埋3層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — |
| | 2 | 3区 | SK4 | 埋3層 | 深鉢 | 大木8 | — | — | — | — | — |
| | 3 | 3区 | SK4 | 埋4層 | 深鉢 | 大木8 | — | — | — | — | — |
| | 4 | 3区 | SK4 | 埋4層 | 深鉢 | 大木8 | — | — | — | — | — |
| | 5 | 3区 | SK4 | 埋4層 | 深鉢 | 大木10 | — | — | — | — | — |
| | 6 | 3区 | SK10 | 2層 | 小形深鉢 | — | — | — | — | — | — |
| | 7 | 3区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — |
| | 8 | 3区 | SK6 | 2層 | 深鉢 | — | — | — | — | — | — |

第14表 高台遺跡出土石器観察表 (図説資料)

| 遺物 図版 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 | | |
|----------|----------|-------|------|------|--------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------|------------|-----------------------------|--------------|
| 24 | 1 | 15-1 | 3区 | SK1 | 2層 | 石錐 | 1.48 | 1.30 | 0.36 | 0.4 | 基層石 | — | |
| | 4 | 15-2 | 3区 | SK2 | 2-3層 | 石錐 | 1.48 | 1.71 | 0.29 | 0.5 | 頁岩 | 先端が三角形に欠損(折れ) | |
| | 5 | 17-3 | 3区 | SK2 | 埋土3層 | 砥石 | 14.64 | 5.12 | 2.02 | 223.9 | 砂岩 | 接合 | |
| | 10 | 15-32 | 3区 | SK4 | 2層 | 石鈿 | 3.90 | 1.86 | 0.59 | 4.6 | 頁岩 | 先端欠損(折れ) | |
| | 11 | 15-4 | 3区 | SK6 | 3層 | 石錐 | 1.28 | 1.78 | 0.40 | 0.9 | メノウ | 西カマリ部が欠損 | |
| | 12 | 15-5 | 3区 | SK6 | 3層 | 石錐 | 1.47 | 1.58 | 0.31 | 0.5 | 砂岩 | 先端欠損(折れ) | |
| | 13 | 15-37 | 3区 | SK6 | 7層 | 微細網目磨面片 | 2.40 | 2.08 | 0.89 | 4.4 | 頁岩 | 両側に微細網目 | |
| | 14 | 17-1 | 3区 | SK6 | 埋土8層 | 理土8層 | 27.0 | 7.90 | 8.86 | 281.0 | 砂岩 | 打柱状。扉打・研磨で整形。鋭角・割れ | |
| | 16 | 15-6 | 3区 | SK7 | 1層 | 土錐 | 1.86 | 1.25 | 0.34 | 0.5 | 頁岩 | — | |
| | 17 | 17-2 | 3区 | SK7 | 底面 | 磨砕石製品 | 28.57 | 3.21 | 1.64 | 227.8 | セラムス | 元々棒状の石の一部を磨って整形したもの | |
| | 25 | 2 | 15-7 | 3区 | SK9 | 1層 | 石錐 | 1.71 | 1.42 | 0.28 | 0.6 | 頁岩 | — |
| | | 3 | 15-8 | 3区 | SK9 | 1層 | 石錐 | 1.66 | 1.58 | 0.28 | 0.7 | 砂岩 | — |
| | | 4 | 15-9 | 3区 | SK9 | 1層 | 石錐 | 1.61 | 1.42 | 0.25 | 0.6 | 頁岩 | 西カマリ部が欠損(折れ) |
| 5 | | 15-10 | 3区 | SK9 | 2層 | 石錐 | 1.71 | 1.91 | 0.48 | 1.4 | 頁岩 | 破損品 | |
| 6 | | 15-11 | 3区 | SK9 | 2層 | 石錐 | 2.08 | 1.02 | 0.35 | 0.7 | 頁岩 | 細長い。側縁と部断らむ | |
| 7 | | 15-29 | 3区 | SK9 | 2層 | 石錐 | 2.87 | 1.71 | 0.91 | 2.1 | 頁岩 | — | |
| 8 | | 15-21 | 3区 | SK9 | 1層 | 石錐 | 2.53 | 0.70 | 0.38 | 0.7 | 頁岩 | 両側縁 | |
| 9 | | 15-28 | 3区 | SK9 | 1層 | 二次加工磨片 | 1.62 | 2.49 | 0.62 | 2.4 | 頁岩 | — | |
| 10 | | 15-39 | 3区 | SK9 | 1層 | 微細網目磨面片 | 4.04 | 2.88 | 1.13 | 14.6 | 頁岩 | — | |
| 11 | | 17-10 | 3区 | SK9 | 底面 | 石錐 | 2.26 | 1.66 | 5.42 | 17.6 | 砂岩 | 磨面。上面中央凹入。片側欠損 | |
| 18 | | 15-13 | 3区 | SK10 | 2層 | 石錐 | 2.27 | 1.53 | 0.30 | 0.8 | 頁岩 | — | |
| 19 | | 15-14 | 3区 | SK10 | 10-12層 | 石錐 | 2.16 | 1.13 | 0.27 | 0.7 | 頁岩 | 西カマリ部が欠損(折れ) | |
| 20 | | 15-24 | 3区 | SK10 | 2層 | 石錐 | 2.27 | 1.56 | 0.35 | 1.3 | メノウ | 先端欠損(折れ) | |
| 21 | 15-25 | 3区 | SK10 | 2層 | 石錐 | 3.39 | 1.45 | 0.42 | 2.3 | 頁岩 | 先端欠損(折れ) | | |
| 22 | 15-30 | 3区 | SK10 | 2層 | 尖頭磨片 | 3.63 | 2.13 | 0.99 | 7.7 | 頁岩 | — | | |
| 23 | 15-35 | 3区 | SK10 | 2層 | 磨砕石器 | 2.70 | 1.77 | 0.83 | 3.3 | 頁岩 | 小型のストレインパー | | |
| 26 | 3 | 15-26 | 4区 | SK2 | 1層 | 石錐 | 2.68 | 1.69 | 0.55 | 2.0 | 砂岩 | 凸部 | |
| | 4 | 15-28 | 4区 | SK2 | 1層 | 石錐 | 3.04 | 1.91 | 0.75 | 3.9 | 砂岩 | — | |
| | 5 | 15-36 | 4区 | SK2 | 1層 | 磨砕石器 | 1.95 | 1.40 | 0.62 | 1.9 | メノウ | 小窓。全面調整磨面 | |
| | 6 | 15-41 | 4区 | SK2 | 2層 | 石錐 | 3.33 | 3.67 | 1.13 | 17.4 | 頁岩 | 先端欠損(折れ) | |
| | 7 | 15-47 | 4区 | SK2 | 10-11層 | 石錐 | 11.60 | 5.01 | 2.28 | 224.2 | 頁岩 | — | |
| | 8 | 17-10 | 4区 | SK2 | 12層 | 石錐・円石 | 42.96 | 2.66 | 4.10 | 380.0 | 砂岩 | 大型磨石。両面に磨面。上面に凹み3箇所。底縁→一部磨面 | |
| | 9 | 17-12 | 4区 | SK2 | 10-11層 | 石錐 | 21.90 | 2.14 | 0.52 | 20.0 | 砂岩 | 上面に磨面を施す。底縁→一部磨面 | |
| | 10 | 16-17 | 4区 | SK3 | 1層 | 石錐 | 1.94 | 1.39 | 0.31 | 0.7 | 頁岩 | 小窓のストレインパー | |
| | 11 | 15-41 | 4区 | SK3 | 1層 | 二次加工磨片 | 2.48 | 2.38 | 0.73 | 4.2 | 頁岩 | — | |
| | 9 | 15-42 | 4区 | SK4 | 埋土1層 | 二次加工磨片 | 2.31 | 1.55 | 0.71 | 2.3 | 頁岩 | 先端欠損(折れ) | |
| | 10 | 15-43 | 4区 | SK4 | 3-6-8層 | 二次加工磨片 | 1.79 | 1.16 | 1.01 | 2.8 | 頁岩 | 先端欠損(折れ) | |
| | 11 | 15-44 | 4区 | SK4 | 埋土1層 | 二次加工磨片 | 1.61 | 1.32 | 0.35 | 0.5 | 磨面石 | 先端欠損(折れ) | |
| | 12 | 15-46 | 4区 | SK4 | 3-4-5層 | 二次加工磨片 | 0.67 | 3.57 | 1.36 | 21.7 | 頁岩 | 一端に二次加工用ナイフストレインパー | |
| 29 | 1 | 15-33 | 4区 | SK5 | 1層 | ストレインパー | 2.35 | 4.26 | 1.19 | 12.9 | メノウ | — | |
| | 5 | 15-48 | 4区 | SK5 | 6-9層 | 磨砕石器 | 3.97 | 5.06 | 2.58 | 21.4 | 砂岩 | — | |
| | 6 | 17-4 | 4区 | SK5 | 1-5層 | 磨石 | 12.78 | 3.18 | 1.71 | 118.3 | 砂岩 | 先端のみ使用 | |

第15表 高台遺跡出土石器観察表 (写真のみ掲載)

| 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 器種 | 最大長 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 | |
|----------|-----|----|-----|----|-------------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|---|
| 16 | 3 | 3区 | SK9 | 1層 | 石錐 | 2.19 | 1.88 | 0.65 | 2.1 | メノウ | — |
| | 12 | 3区 | SK9 | 3層 | 石錐 | 2.09 | 1.34 | | | | |

| 宮城県 指定 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 地層 | 最大径 (cm) | 最大幅 (cm) | 最大厚 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 | |
|-----------|-----|------|--------|----------|-------------|-------------|-------------|-----------|-------|-------------------|------------|
| 16 | 49 | 3区 | SK1 | 埋土1層 | 礫石 | 6.46 | 5.67 | 4.45 | 261.8 | 花崗閃緑岩 | 正面側面→前面に磨面 |
| 50 | 3区 | SK2 | 埋土2・3層 | 礫石・磁石 | 7.26 | 5.79 | 4.2 | 246.6 | 砂岩 | 前面に磨面→一部に磨行 | |
| 51 | 3区 | SK9 | 2層 | 礫石・磁石・四石 | 8.63 | 5.47 | 4.53 | 238.3 | 四角石 | | |
| 52 | 3区 | SK10 | 2層 | 礫石 | 5.2 | 4.95 | 2.75 | 106.5 | 花崗閃緑岩 | 小窓や中層平な四角石 前面に磨面 | |
| 53 | 3区 | SK2 | 埋土2・3層 | 礫石・磁石・四石 | 7.76 | 7.92 | 6.76 | 660 | 花崗閃緑岩 | 奥面に4面の磨面 | |
| 54 | 3区 | SK9 | 2層 | 礫石 | 12.37 | 9.23 | 6.28 | 1160 | アイサイト | 奥面に磨面 | |
| 55 | 3区 | SK2 | 埋土2・3層 | 礫石 | 15.12 | 8.32 | 5.61 | 1150 | 花崗閃緑岩 | 内四角や中層平 奥面に磨面 | |
| 56 | 3区 | SK2 | 埋土2・3層 | 礫石・磁石 | 14.68 | 10.21 | 8.21 | 1850 | 砂岩 | 奥面に磨面 正面に磨行 | |
| 57 | 3区 | SK4 | 埋土3層 | 礫石 | 14.59 | 9.17 | 7.85 | 1590 | 花崗閃緑岩 | 内四角 奥面に磨面 扁平ではない | |
| 58 | 4区 | SK2 | 6・8層 | 礫石 | 11.99 | 8.15 | 6.57 | 1000 | 砂岩 | 奥面に磨面 磨熱→ハジケ | |
| 59 | 4区 | SK2 | 7層 | 礫石 | 12.63 | 8.93 | 6.6 | 980 | 砂岩 | 奥面に磨面→前面磨熱→磨れ | |
| 6 | 4区 | SK6 | 2・7層 | 礫石 | 14.95 | 5.76 | 4.92 | 720 | 磁気石 | 奥面に磨面→磨熱 | |
| 6 | 3区 | SK2 | 埋土2・3層 | 石皿 | 16.7 | 18.6 | 8.22 | 3030 | 砂岩 | 大型 扁平 奥面に磨面 磨熱→磨れ | |
| 7 | 3区 | SK4 | 埋土3層 | 石皿 | 18.45 | 8.06 | 10 | 2830 | 砂質凝灰岩 | 片面に磨面 石皿→磨熱→磨れ | |
| 8 | 3区 | SK2 | 中～平層 | 石皿 | 36.1 | 9.66 | 5.86 | 3360 | 凝灰岩 | 石皿2段 大 上面に平面面に磨面 | |
| 9 | 3区 | SK8 | 埋土2層 | 石皿・四石 | 24.7 | 21.7 | 13.2 | 11040 | アイサイト | 大型磁気 奥面に磨面 上面の磨面付 | |

第4章 古館貝塚

遺 跡 名：古館貝塚（宮城県遺跡地名表登録番号 63017）

所 在 地：気仙沼市唐桑町鮎立

調査原因：個人住宅建設

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査協力：宮城県教育委員会

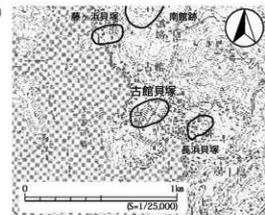
調査期間：平成24年7月20日～8月1日

調 査 員：鈴木実夫、韓野寛治、

豊村幸宏・小淵忠司（宮城県支援）

対象面積：467㎡

調査面積：105㎡



第31図 古館貝塚の位置

1. 調査に至る経緯

古館貝塚は、唐桑半島の付け根に位置し、内湾に突き出した半島状の鞍部に立地する（第31図）。昭和43年に鼎が浦高等学校により発掘調査が行われ、縄文時代中期末から後期初頭にかけての遺物が多数出土している。今回の調査は個人住宅1戸を新築する事業に伴い実施した。調査対象地は遺跡中央部に当たり、現況は畑地である。

2. 調査の概要

住宅建設区域に2本の東西方向トレンチ（T1・2）を設定し、擁壁設置箇所1本の南北方向トレンチ（T3）を設定して、重機と人力により確認調査を行った（第32図）。その結果、T1・2では地山面まで削平が及んでいるものの、T3では遺構が残存することを確認した。T3の区域については、工法の変更が困難であることから、引き続き本発掘調査を実施した。

地表面下0.2m前後で見出される明黄褐色粘質シルトの地山面において、土坑4基、ピット2基を検出した（第33図）。検出したすべての遺構について、断面観察を行った上で完掘し、撮影および平面図作成を行って調査を終了した。遺物は縄文土器・石器が整理用コンテナ3箱分出土した。

3. 調査の成果

【SK1 土坑】

平面形は直径1.7mの比較的整った円形である。残存深さは40cmで、壁は鋭角→垂直気味に立ち上がり、南東辺でオーバーハングする。底面は水平である。堆積土中から縄文時代中期中葉の大名8b式→後期前葉の南境式の特徴をもつ土器が出土した（第34図1～8）。

【SK2 土坑】

当発掘区の4基の土坑の中で最も残存状態が良い。平面形は直径1.5mの整った円形である。底面はほぼ水平である。残存深さは66cmで、壁は鋭角～垂直に立ち上がり、オーバーハングしてフラスコ状を呈する。堆積土中から大木8b式～縄文時代後期初頭の門前式の特徴をもつ土器（第34図9～18）、磨石2点（写真図版19-28・31）が出土した。

【SK3 土坑】

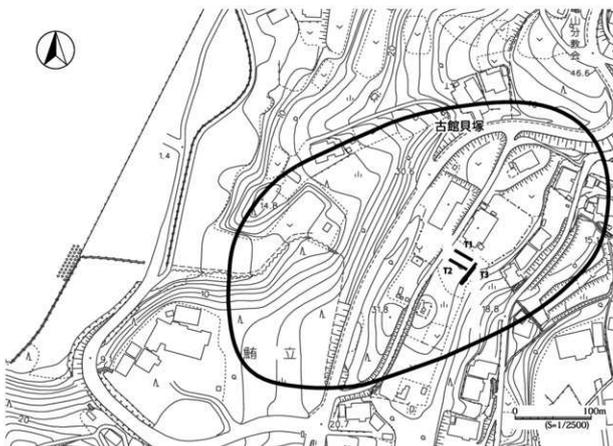
他よりも小型で平面形は直径1.2mのやや歪な円形である。残存深さは22cmで、壁は垂直気味に立ち上がり一部でオーバーハングする。底面は水平で、中心から北西壁際に延びる浅い溝が伴う。遺物は出土していない。

【SK4 土坑】

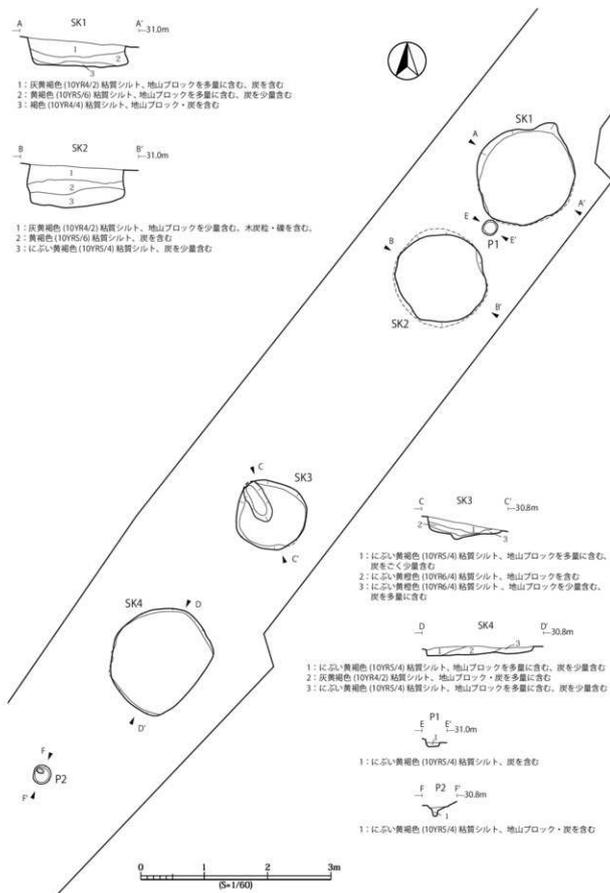
南東側で削平が底面以下まで及んでいるが、平面形は直径1.7mの円形と推定される。底面はほぼ水平で、残存深さは14cmで、壁は垂直に立ち上がる。堆積土中から大木8b式や南境式の特徴をもつ土器（第35図）、石棒1点（写真図版19-34）、棒状の磨石2点（写真図版19-32・33）、磨石・敲石類2点（写真図版19-29・30）が出土した。

【ピット】

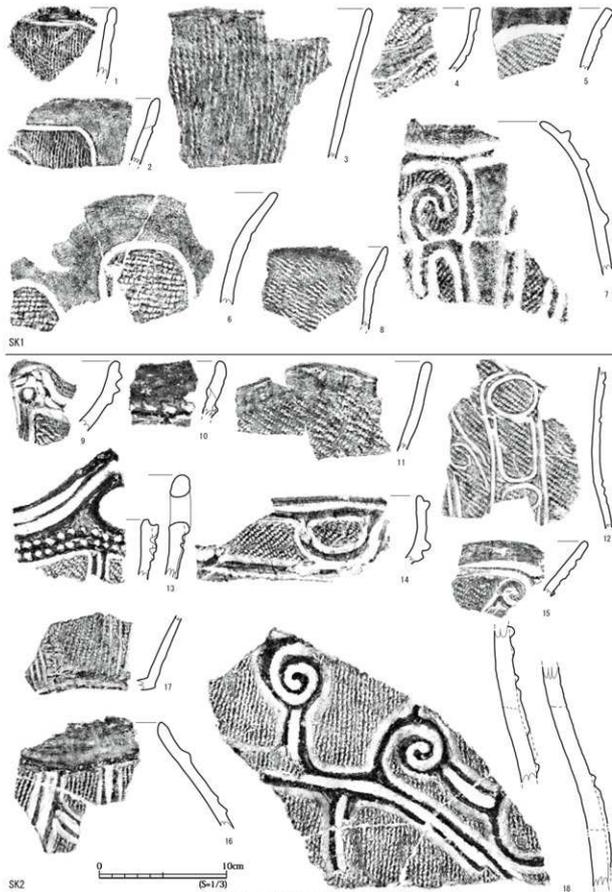
2基検出した。P1は直径0.2mの円形、P2は直径0.3mの円形を呈する。残存状態は良好ではなく、



第32図 古館貝塚トレンチ配置図



第33図 古館貝塚T3遺構平面図・断面図



第34図 古館貝塚SK1・2出土遺物



第35図 古館貝塚SK4出土遺物

柱痕跡などは確認できなかった。P1から貝殻片が出土した。

4. まとめ

SK1～4土坑は、平面形が円形で、底面がほぼ水平、壁が鋭角～垂直に立ち上がるという共通した特徴をもつ。堆積土はいずれも黄褐色基調で、多くで地山ブロックを多量に含み、壁崩落の影響が推定される。以上から、これらはフラスコ状を呈する貯蔵穴と考えられる。規模は長軸1.2～1.7mで、大型と小型がある。大型は3基で1.5～1.7mにまとまり、底面施設は伴わない。小型はSK3のみで底面に溝をもつ。

第16表 古館貝塚土坑一覧表

| 遺構No | 平面形 | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 深さ (cm) | 特徴 |
|------|-----|-----------|-----------|------------|------|
| SK1 | 円形 | 1.7 | 1.6 | 40 | |
| SK2 | 円形 | 1.5 | 1.4 | 66 | 底面に溝 |
| SK3 | 円形 | 1.2 | — | 22 | 底面に溝 |
| SK4 | 円形? | 1.7 | 1.4以上 | 14 | |

堆積土中からは縄文時代中期中葉の大木8b式～後期前葉の南境式までの各型式の特徴をもつ土器が出土している。土坑同土には重複がないことからこれらは同時期の可能性が高く、後期前葉の貯蔵穴群と考えられ、中期中葉以降の包含層を掘り込んで構築されたが、包含層が割平により失われたと推定される。

を行ったところ、対象地内において遺構の損壊は避けられることとなった。なお遺構の性格把握のための溝跡の一部で掘り下げを行った。調査終了後、調査区を埋め戻し遺構は現地保存された。

(2) 平成 24 年度 2 次調査

遺構面まで掘削が及ぶ可能性のある区域に調査区を設定し、重機による表土除去の後、遺構検出を行った。表土直下で地山となり、地山面で竪穴建物跡 1 軒、溝跡 1 条、土坑 1 基、ピット 27 基を確認した(第 39 図)。遺物は土師器・須恵器・縄文土器など整理用コンテナ 2 箱分が出土した。調査結果を受けて、申請者、施工業者、設計業者と遺構の保存について協議を行ったところ、竪穴建物跡が発見された北西部区域 25㎡については、設計変更により保存されることとなった。

保存区域の遺構については、遺構の性格を把握するための最小限の調査を行い、調査終了後は遺構面を養生した上で埋め戻した。保存区域外の 130㎡については本発掘調査を行った。

4. 調査の成果

(1) 平成 24 年度 1 次調査地点

【SD1 溝跡】

T1 北部で検出した。東西方向に延びており、南辺部分を 22.0 m にわたり検出した。幅は判明しないが、3.7 m 以上である。遺物は出土していない。位置関係から、発掘区の北に隣接する末永館跡主郭に伴う遺構の可能性が考えられる。

【SD2 溝跡】

T1 から T2 にかけて検出した。SD1 の南方約 4 m に平行して延びる溝である。東西 20.5 m 分を検出した。最大幅は 4.5 m である。掘り下げを行った西端部における検出面からの深さは 1.7 m である。遺物は出土していない。SD1 と同様に、発掘区の北に隣接する末永館跡主郭に伴う遺構の可能性が考えられる。



第 37 図 南畷知良塚調査箇所

【SI3 竪穴建物跡】

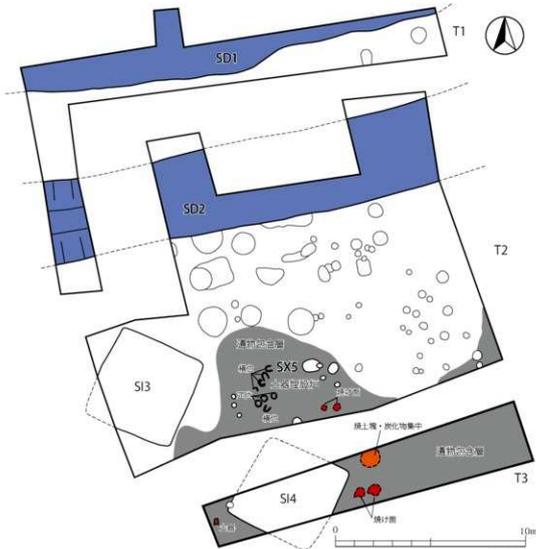
T2 の西端で検出した。西隅部分が調査区外である。平面形は東西 4.8 m、南北 5.0 m の方形である。非ロクロの土師器の甕(写真図版 21-1)が出土した。土器の特徴から奈良時代頃のものと考えられる。

【SI4 竪穴建物跡】

T3 の西半で検出した。検出部分から、平面形は東西 5.0 m、南北 4.8 m の方形と推定される。遺物は出土していないが、形状・規模及び方向を同じくする SI1 と同時期の建物跡である可能性が高い。

【SX5 土器埋設戸】

T2 の南部で 8 基の埋設土器が隣接して検出された。いずれも縄文土器深鉢とみられ、5 基が横位、3 基が正位である。いずれの土器の周囲にも被熱の影響がみられ、炉跡と考えられる。掘り下げを行っていないため、詳しい埋設・重複状況、土器型式などは不明である。



第 38 図 南畷知良塚平成 24 年度 1 次調査遺構配置図

[貯蔵穴] 南東隅付近、カマドに向かって右側で検出した。上端は周溝と連続しているが、重複関係は不明である。平面形は直径1.0mの円形とみられる。堆積土上面から板状の炭化材が出土し、穴を覆う蓋材の可能性が考えられる。

[外延溝] 南東隅付近から南東へ延びる。3.0mを検出し、上幅25～30cm、深さは20cmである。調査対象地は南東に向かい緩やかに下る地形であり排水機能をもつものと推定される。

[時期] 出土土器から9世紀前半頃と判断される。

【SK2 土坑】

調査区北端で検出した。検出部分の最大長が2.2mを測る大型の土坑であるが、発掘区外にさらに広がるかとみられ、全体形状と規模は不明である。東に隣接するSD3との関係は判然としない。詳細不明の土器小片1点が出土した。

【SD3 溝跡】

発掘区北端で検出した。L字状に総長で3.1mを検出した。溝底面からはピットを6基が近接して検出され、一部ピット底面まで掘り下げを行った。柱抜き取り痕か柱痕跡の可能性があり、堆積土中からは縄文前期のものとみられる土器片が出土していることから、堅穴建物の周溝および壁柱穴の可能性も考えられる。

【ピット群】

柱穴の可能性のある小型の穴を26基検出した。多くは直径30cm前後の不整な円形を呈する。残存状態は良好ではなく、検出面からの深さが20cmに満たないものが大半を占める。遺構内堆積土は、地山ブロック混じりの黒褐色シルトを基本とする。P18では柱痕跡が認められた。建物を構成するようなまとまりは確認されなかった。P1から詳細不明の土器片が1点出土した。

5. まとめ

1次調査地点では、永末館跡に伴う堀とみられる溝跡、奈良時代とみられる堅穴建物跡、縄文時代前期末～中期中葉とみられる土器埋設炉、土坑群、2次調査地点では、平安時代の堅穴建物跡などを検出した。南最知貝塚は縄文時代の貝塚および古墳時代の集落跡として知られる遺跡であるが、今回2地点で新たに古代の遺構を検出した。丘陵上にはこの時代の遺構も広く分布していることが推定される。また、気仙沼市域では、古代の遺構の発見例は稀で、この時代の様相を考える上で貴重な成果である。

第20表 南最知貝塚出土土器観察表 (図示資料)

| 遺物 図版 | 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 種類 | 形状 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 特 徴 |
|----------|----------|-----|----|------|-----|-----|------------|------------|------------|---------------|
| 40 | 1 | 22 | 2次 | SD01 | 漆器土 | 土師器 | 高台杯 | 7.0 | — | 口ノコ土師器、内面黒色発光 |

第21表 南最知貝塚出土土器観察表 (写真のみ掲載)

| 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 種類 | 形状 | 口径 (cm) | 底径 (cm) | 器高 (cm) | 特 徴 |
|----------|-----|----|------|---------|------|------------|------------|------------|----------------------------|
| 21 | 1 | 1次 | T2 | SD1 | 検出 | 土師器 | 罍 | — | — |
| | 2 | 1次 | T2 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | — | — | 発光 |
| | 3 | 1次 | T2 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | — | — | 浅鉢、縄文(北東朝転) |
| | 4 | 1次 | T2 | 土坑 | 縄文土器 | 深鉢 | — | — | 縄文粘付文 |
| | 5 | 1次 | T2 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | — | — | 口縁部彫塑、彫付文、不明縄文 |
| | 6 | 1次 | T3 | 検出面 | 須恵器 | 罍 | ? | — | — |
| | 7 | 1次 | T3 | 検出面 | 須恵器 | 罍 | ? | — | — |
| | 8 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | — | — | 口縁内面に横、小波状粘土粒粘付文、縄文(北東朝転) |
| | 9 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.8a | — | 粘着縄文(北東朝転) |
| | 10 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7b | — | 漆器部発光、発光発光上点による連続彫塑 |
| | 11 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7c | — | 漆器部発光(漆器土)粘付文、粘付文(北東朝転) |
| | 12 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | ? | — | 横紋押花縄文(北東朝転) |
| | 13 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7d | — | 羽流し口縁部粘 |
| | 14 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7e | — | 羽流し口縁部粘、縄文(北東朝転) |
| | 15 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7f | — | 金色鉄屑、多量白土、一層土流山形文、発光上に三角彫刻 |
| | 16 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | ? | — | No.130と同→一層土流山形文、発光上に三角彫刻 |
| | 17 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7g | — | 粘着縄文(北東朝転)、縄文(北東朝転) |
| | 18 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.7h | — | 粘着縄文(北東朝転) |
| | 19 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | ? | 4.2 | 無文 |
| | 20 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.6 | — | 口縁部彫塑 |
| | 21 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.6 | — | 彫付文 |
| | 22 | 1次 | T3 | 検出面 | 縄文土器 | 深鉢 | 大6.6 | — | 字義竹管による幾何学文 |
| | 28 | 2次 | SD01 | カマド内堆積土 | 須恵器 | 杯 | ? | — | — |
| | 29 | 2次 | SD01 | カマド内堆積土 | 土師器 | 罍 | ? | — | — |

第22表 南最知貝塚出土土器観察表 (写真のみ掲載)

| 写真 図版 | 調査区 | 遺構 | 層位 | 種類 | 最大径 (cm) | 最大幅 (cm) | 重量 (g) | 石材 | 特 徴 | |
|----------|-----|----|-----|-----|-------------|-------------|-----------|------|------|-------|
| 21 | 1 | 1次 | T3 | 検出面 | 石核 | 6.4 | 2.85 | 3.32 | 頁岩 | |
| 24 | 1 | 1次 | T3 | 検出面 | 打製石斧 | 8.9 | 6.41 | 2.78 | 2334 | 頁岩 |
| 25 | 1 | 1次 | T3 | 検出面 | 鉾石 | 7.24 | 4.89 | 2.55 | 1476 | デイサイト |
| 30 | 1 | 1次 | T3 | 検出面 | 石皿 | 10.59 | 7.21 | 54 | 850 | 砂岩 |
| 31 | 2 | 2次 | SD1 | 検出面 | 磨石 | 8.94 | 6.12 | 1.36 | 3441 | デイサイト |

第6章 星谷遺跡

遺跡名：星谷遺跡（宮城県遺跡地名表登録番号 59104）

所在地：気仙沼市岩月星谷 92-1

調査原因：個人専用住宅建設

調査主体：気仙沼市教育委員会

調査協力：宮城県教育委員会

調査期間：平成24年9月21日～10月1日

調査員：輔野寛治、三好秀樹・遠藤 武（宮城県支援）

対象面積：313.86㎡

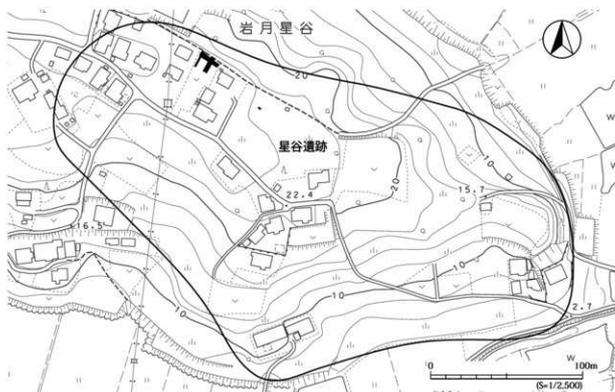
調査面積：45㎡



第41図 星谷遺跡の位置

1. 調査に至る経緯

星谷遺跡は岩月星谷に所在し、気仙沼市の南部、岩倉山（294 m）から気仙沼湾に向かって延びる標高約25 mの丘陵上に位置する（第41図）。個人住宅1戸の新築に伴い、平成24年9月22日に確認調査を実施した。対象地は遺跡北端部の平坦面から北斜面にあたり（第42図）、北斜面周辺から縄文時代の遺物包含層が確認された。この箇所が擁壁設置により壊されることとなり本発掘調査を行った。



第42図 星谷遺跡調査箇所

2. 調査の概要

擁壁設置部分に調査区を設定し調査を行った。基本層序は表土、遺物包含層、旧表土、地山である。地山面で堅穴建物跡1棟、土坑1基を検出した（第44図）。遺物は縄文土器・石器が整理用コンテナ2箱分出土した。

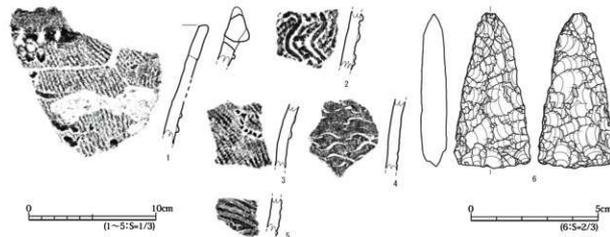
3. 調査の成果

【遺物包含層】

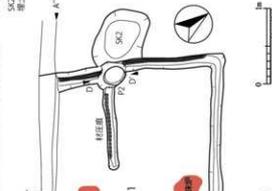
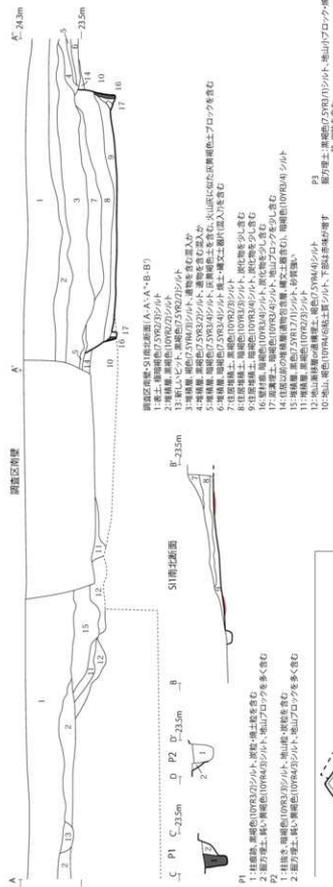
調査区の中央部周辺に分布する。断面図2～6層は後世に削平されたのち堆積した層と考えられ、遺物を含むが混入とみられる。これより下層部分が本来の遺物包含層である。東側では厚さ30cmであるが、西側では削平により残存状況は部分的である。遺物の含有量は少ない。層中から、縄文時代前期前葉～後葉の深鉢型土器（第43図1～5）、石鏝（第43図6）、磨石・敲石（写真図版22.7・8）、石棒とみられる石製品破片（写真図版22.9）が出土した。

【S11 堅穴建物跡】

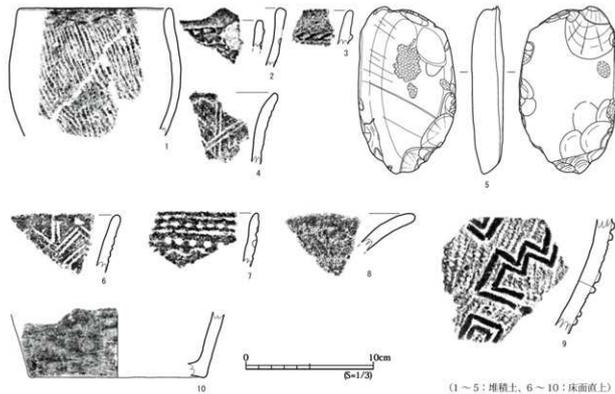
調査区西寄りの箇所では北端部を検出した。包含層との前後関係は判然としない。平面形は東西約3.5m、南北2.2m以上の長方形で、壁は垂直に立ち上がり、深さは調査区南壁で40cmである。床面はほぼ水平で、上面から柱穴3基（P1～3）、周溝、東西方向の溝跡2条、地床炉2基を検出した。柱穴はいずれも壁際に位置し、長軸45cmの楕円形を呈し、深さは30～40cmである。P1・2では直径18cmの柱痕跡が認められ、P3では柱を抜き取った痕跡が認められる。堅穴の内側では柱穴は見つかっていないため、これらが主柱穴と考えられる。周溝は幅15～20cm、深さ10cmで、一部に幅5cm程度の壁材痕が認められる。溝はP1、P2から堅穴中軸に向かって延び、西側の溝では底面に材の圧痕が認められ、間仕切りと考えられる。地床炉は中軸上に約1mの間隔を開けて並ぶ。火床範囲は北側が40×30cm、南側が50×35cmである。遺物は（第45図1～10）、床面直上および堆積土中から縄文土器（第45図2～4・6～10）、打製石斧（第45図5）が出土した。土器はいずれも大木5式の範疇で捉えることができ、遺構の時期は縄文時代前期後葉と考えられる。



第43図 星谷遺跡遺物包含層出土遺物



第44図 星谷遺跡遺構平面図・断面図



第45図 星谷遺跡 S11 竪穴建物跡出土遺物

【SK2土坑】

S11の西辺に隣接して検出された。平面形は長軸85cm、短軸60cmの楕円形である。遺物は出土していない。S11との関係は不明である。

4. まとめ

遺跡が立地する丘陵の丘陵頂部平坦面北辺を調査し、竪穴建物跡と遺物包含層を検出した。竪穴建物跡は平面形が長方形で壁際に柱を配置する構造で、内部には間仕切りをもち、中軸上に地床坪が複数並ぶとみられ、縄文時代前期後葉の長方形の大型竪穴建物跡の可能性が高い。丘陵頂部平坦面周辺にはこの時期の住居が分布し集落が形成されていたと推定される。平坦面から斜面にかけては、縄文時代前期前葉～後葉頃の遺物包含層が分布すると推定されることから、集落の時期は前期前葉まで遡る可能性がある。

第 23 表 星谷遺跡出土土器観察表 (図示資料)

| 遺物 種別 | 写真 掲載 | 遺構 | 層位 | 部類 | 形式 | 口径 (cm) | 口径 (cm) | 器高 (cm) | 特 徴 | | | | | | | | | |
|----------|----------|-------|-----|-----|-----|------------|------------|------------|---------------------------------|--------|-------|---------|-----|----|----------------------|------|----|------------------------|
| 43 | 1 | 22 | 22 | 包含層 | 漆器 | 大木 5 | — | — | 龍巻状隆帯、粘土紐付けによる龍巻状文、空孔、押糸文(凸線凹刻) | | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | 包含層 | 漆器 | 大木 4-5 | — | — | 粘土紐付けによる棒状文、縄文(凸線凹刻) | | | |
| | | | | | | | | | | 包含層 | 漆器 | 大木 2b-3 | — | — | 柄みのある粘土紐付文、縄文(凸線凹刻) | | | |
| | | | | | | | | | | 包含層 | 漆器 | 大木 2a | — | — | S字龍巻状文、縄文(凸線凹刻) | | | |
| | | | | | | | | | | 包含層 | 漆器 | 大木 2a | — | — | 木目状押糸文(L) | | | |
| 45 | 1 | 22-10 | SI1 | 他 | 後前面 | 漆器 | 前期中葉～末葉 | 12.2 | — | 押糸文(L) | | | | | | | | |
| | | | | | | | | | | | 22-11 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | 大木 5-6 | — | 横溝 | |
| | | | | | | | | | | | 22-12 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | 大木 5-6 | — | — | 柄みのある横溝隆帯 |
| | | | | | | | | | | | 22-13 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | 大木 5 | — | — | 手取管管による凸形文、縄文(凸線凹刻) |
| | | | | | | | | | | | 22-14 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | — | — | — | 手取管管による凸形文、縄文(横溝) |
| | | | | | | | | | | | 22-15 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | — | — | — | 横溝、横溝付 |
| | | | | | | | | | | | 22-16 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | 大木 4-5 | — | — | 口縁内面(粘土紐付け)による龍巻文(逆巻) |
| | | | | | | | | | | | 22-18 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | 大木 4-5 | — | — | 折返し粘土紐による龍巻状文、縄文(凸線凹刻) |
| | | | | | | | | | | | 22-17 | SI1 | 前縁上 | 漆器 | — | 14.0 | — | 横文 |

第 24 表 星谷遺跡出土土器観察表 (図示資料)

| 遺物 種別 | 写真 掲載 | 遺構 | 層位 | 部類 | 最大径 (cm) | 最大径 (cm) | 最大径 (cm) | 重量 (g) | 石柱 | 特 徴 | |
|----------|----------|-------|-----|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|-----|-----|--------------------|
| 43 | 6 | 22-6 | | 包含層 | 6.8 | 6.12 | 2.96 | 1.02 | 186 | 貝 | |
| 45 | 5 | 22-19 | SI1 | 漆器 | 打製石片 | 13.2 | 7.6 | 2.6 | 359 | | 横溝縁部に溝線あり、管口自然面に磨打 |

第 25 表 星谷遺跡出土土器観察表 (写真のみ掲載)

| 写真 掲載 | 遺構 | 層位 | 部類 | 最大径 (cm) | 最大径 (cm) | 最大径 (cm) | 重量 (g) | 石柱 | 特 徴 | |
|----------|----|----|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|-------|----------|-------------|
| 22 | 7 | | 包含層 | 磨石・磨石 | 7.37 | 6.42 | 5.33 | 356.4 | 砂岩 | 両面に磨面、片面に磨打 |
| 8 | | | 包含層 | 磨石 | 8.91 | 7.63 | 3.82 | 410 | アイナメ石 | 両面に磨面 |
| 9 | | | 包含層 | 石製品(石棒杵) | 6.68 | 1.7 | 0.71 | 9.3 | ホソバツェルムス | 磨打 |

参考・引用文献 (第 1～6 章まで)

- 阿部 恵・遊佐五郎 1978「長者原貝塚」南方町文化財調査報告書第 1 集
- 福野裕介ほか 1983「瀬ノ沢遺跡(1977～1982 年度調査)」北上市文化財調査報告書第 33 集
- 大崎市教育委員会 2008「東要喜貝塚」宮城県大崎市文化財調査報告書第 3 集
- 加藤 孝 1951「宮城県上川名貝塚の研究 - 東北地方縄文式文化の編年学的研究(一)-」『宮城学院女子大学研究論集 1』pp.138-199
- 加藤 孝 1956「陸前田大松澤貝塚の研究」その(一)・その(二)『宮城学院女子大学研究論文集』9・10
- 興野義一 1968「大木式土器理解のために(Ⅲ)」考古学ジャーナル 18 号 pp.8-10
- 興野義一 1968「大木式土器理解のために(Ⅳ)」考古学ジャーナル 24 号 pp.17-19
- 興野義一 1969「大木式土器理解のために(Ⅴ)」考古学ジャーナル 32 号 pp.6-9
- 興野義一 1970「大木式土器理解のために(Ⅵ)」考古学ジャーナル 48 号 pp.20-22
- 気仙沼市教育委員会 1980「南最知遺跡発掘調査概報」気仙沼市文化財調査報告書第 2 集
- 小井川和夫・阿部 恵 1980「宇賀崎貝塚」『金剛寺貝塚・宇賀崎貝塚・宇賀崎 1 号墳他』宮城県文化財調査報告書第 67 集 pp.55-182
- 東北歴史資料館 1989「宮城県貝塚」東北歴史資料館資料集第 25 集
- 丹羽 茂 1981「大木式土器」『縄文文化の研究』II 鹿山閣
- 藤沼邦彦ほか 1969「埋蔵文化財緊急発掘調査概報-長根貝塚-」宮城県文化財調査報告書第 19 集
- 宮城県豊が浦高等学校社会部 1965「気仙沼周辺遺跡の概要及び大島磯草貝塚・大浦浦貝塚発掘調査報告」
- 宮城県教育委員会 1986「小梁川遺跡発掘調査報告書Ⅱ」宮城県文化財調査報告書第 117 集
- 宮城県教育委員会 1987「中ノ内 A 遺跡」・「中ノ内 B 遺跡」・「中ノ内 A 遺跡・本屋敷遺跡他」東北横断自動車道遺跡調査報告書Ⅱ』宮城県文化財調査報告書第 121 集
- 宮城県教育委員会 2003「嘉倉貝塚」宮城県文化財調査報告書第 192 集
- 八巻正文ほか 1979「大木貝塚 - 昭和 52 年度環境整備調査報告」七ヶ浜町文化財調査報告書第 4 集

第 7 章 磯草貝塚から出土した動物遺存体

崎崎哲也・山崎 健 (奈良文化財研究所)

1. 整理対象遺物 (分析資料) の限定

磯草貝塚の平成 24 年度 1 次調査において、T3 から縄文時代前期末葉～中期初頭の貝層が検出された。貝層は土壌ごと採取され、気仙沼市教育委員会で 4mm 目と 1mm 目フルイによる水洗選別作業が実施された。出土した動物遺存体は整理用コンテナ 13 箱分 (土壌選別終了段階) におよぶが、奈良文化財研究所に支援要請が来た時点で、分析に残された時間が 1 ヶ月程度しか残されていなかったため、整理対象遺物を限定して作業を簡略化することで対応した。

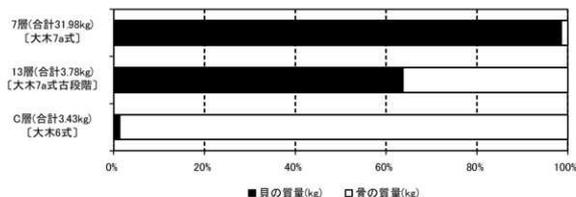
分析対象は、磯草貝塚における動物利用の時間的変遷を検討できる必要最小限の資料に限定し、出土した動物遺存体のうち、A2 層と C 層 (大木 6 式)、A2 層 (大木 6 式新段階)、13 層 (大木 7a 式古段階)、7 層と 8 層 (大木 7a 式) のみを対象とした。分析資料は、①現場で採集された資料 (以下、「現場採集資料」) と、貝層を水洗選別して得られた資料のうち、② 4mm 目フルイの面上で回収された資料 (以下、「4mm 目フルイ資料」)、③ 1mm 目フルイの面上で回収された資料 (以下、「1mm 目フルイ資料」) に大別できる。分析対象とした層位について、現場採集資料はすべての資料、4mm 目フルイ資料は原則として各層土壌 2 袋のみを抽出して分析した。7 層のみ、土壌 1 袋分の量が多かったため、土壌 1 袋分を分析している。また 7 層の現場採集資料については、「7・8 層」とラベルに書かれた現場採集資料も含まれている。なお、1mm 目フルイ資料は、時間的制約から本報告では参考で触れる程度に留めざるを得なかった。

2. 同定・記載

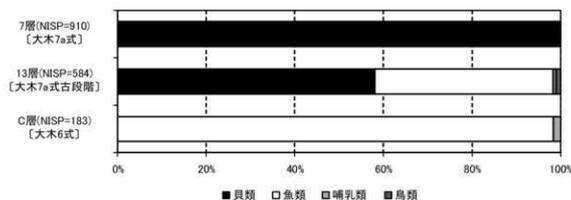
動物遺存体組成の時間的変遷を把握するため、各層ごとに骨と貝を分けて、それぞれの質量を電子天秤で計量した。同定は現生骨格標本との比較によりおこない、比較標本は環境考古学研究室の所蔵標本を用いた。貝類 1,289 点、フジツボ類 61 点、ウニ類 14 点、魚類 672 点、鳥類 7 点、哺乳類 19 点の合計 2,062 点を同定した。同定された分類群は 61 分類群である。出土した動物遺存体の種名表を第 26 表、一覧を第 27～34 表に示す。種名の記載は、西村編 (1992、1995)、奥谷編 (2000)、阿部監修 (2008)、日本鳥学会編 (2012)、中坊編 (2013) に従った。

貝類は 28 分類群を同定した。アサリが最も多く見られ、イシダタミ、クチバガイ、スガイ、ニシキウスガイ科、コシダカガンガラが次いで出土した。生態を考慮すると、砂質・砂泥質に生息するアサリやクチバガイ、岩礁・礫に生息するイシダタミ、スガイ、ニシキウスガイ科、コシダカガンガラが多く出土している。フジツボ類ではチシマフジツボが多く出土し、種は不明であるがウニ類も出土した。

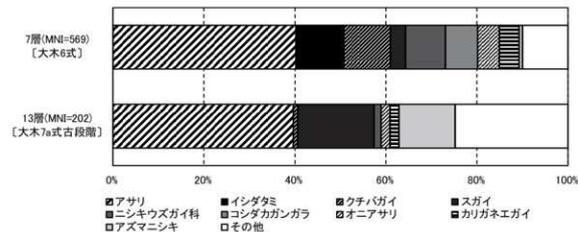
魚類は 19 分類群を同定した。マグロ属やマダイ、タイ科が多く、アイナメ属、カツオ、メバチ科が次いで出土している。また、ネズミザメ科の歯を素材とした歯飾が 1 点出土した。マグロ属にはク



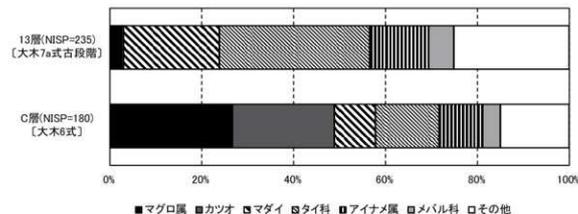
第46図 質量の層位変化



第47図 動物遺存体の層位変化



第48図 貝類組成の層位変化



第49図 魚類組成の層位変化

5. 漁撈活動

4mm目フルイ資料における魚類組成をみると、下層のC層(大木6式)ではマグロ属やカツオが非常に多く出土したが、中層の13層(大木7a式古段階)ではマグロ属やカツオが激減して、上層の7層(大木7a式)になると魚類の出土量自体が減少して同定可能資料は0点であった(第49図)。現場採集資料ではC層(大木6式)は資料が採集されていないため、その上層であるA2層(大木6式)とA2層(大木6式新段階)の資料を分析したところ、A2層(大木6式)で114点、A2層(大木6式新段階)で116点と出土量が多く、とくにマグロ属とマダイが卓越した。しかし、13層(大木7a式古段階)では8点、7・8層(大木7a式)では19点と現場採集資料の出土量が激減した(第33表)。

なお、詳細な分析はできなかったが、1mm目フルイ資料ではニシン科やカタクチイワシなどが見られ、大型魚類を対象とした漁撈活動だけでなく、小型魚類を対象とした漁撈活動もおこなわれていたことが確認できる。

6. まとめ

磯草貝塚では、前期末葉～中期初頭の貝層が検出された。全体として、採貝活動(貝類)や漁撈活動(魚類)が活発であるのに対し、狩猟活動(哺乳類・鳥類)は低調であった。

前期末葉の大木6式期では、マグロ属・マダイ・カツオの3種を中心とした漁撈活動を活発におこなう一方で、採貝活動は低調であった。本稿では、時間的制約から1mm目フルイ資料を分析できなかったが、小型魚類を対象とした網漁などもおこなっていたことは確認できる。

中期初頭の大木7a式古段階の時期では、魚類の出土量が減少して、貝類の出土量が増加した。採貝活動はアサリを主体とし、漁撈活動はマダイを主体となつて、マグロ属やカツオの出土量は激減する。

さらに中期初頭の大木7a式期になると、魚類がほとんど出土しなくなった。アサリを主体とする採貝活動は継続するが、砂泥底に生息する貝類がやや増加しており、海退現象に伴う遺跡周辺の海洋環境の変化が示唆される。

魚骨層や骨をほとんど含まない貝層のように、漁撈活動や採貝活動といったある特定の生業活動に特化することが大きな特徴といえる。こうした廃棄の様相からは、通年的に定住した集落形態ではな

く、作業場なども含む短期的な居住形態が示唆される。三陸海岸では、縄文時代前期後半にマクロ属が層をなすほど集中して出土することが知られており、例えば岩手県大船渡市の蛸の浦貝塚では、縄文時代前期末葉（大木6式期）に比定される層で「マクロの骨がぎっしりと詰まった層が厚さ5～10cmほどで2枚見られた」との記載が見られる（大船渡市立博物館編 1987）。今後、他遺跡との比較を踏まえて、磯草貝塚の様相を評価する必要があるだろう。

7. 今後の課題

復興関連調査の中で、整理対象資料を最小限に限定して報告をおこなった。貴重な資料群であるが、整理作業を簡略化せざるを得ない状況のため、将来の様々な活用に向けて今後の課題を明示しておきたい。

- ・4mm目フルイ資料は、各層とも土壌2袋分のみを抽出したため、今後は分析資料を増やして、本報告で得られた同定結果が各層や各時期を代表するものなのかを検証する必要がある。
- ・1mm目フルイ資料の分析を実施することができなかった。三陸海岸は、縄文時代の貝塚が高密度で分布する地域として知られているが、貝塚調査で水選別作業が一般的になる以前の調査であり、現場採集資料の情報しか分からない遺跡が多い。磯草貝塚の1mm目フルイ資料は、三陸海岸における生産活動を検討する上で重要な情報となる。
- ・骨に認められる痕跡について、分析・報告することができなかった。大量に出土したマクロ属の骨の中には、解体痕跡とともに、刺突の際に残された可能性のある痕跡も認められた。銛頭を用いた漁撈活動が盛んとなる前の段階における、マクロ漁の実態を示す貴重な資料といえよう。

第27表 哺乳類・鳥類の観察表（現場採集資料）

| 層名 | 時期 | 大分類 | 種名 | 部位 | 部分 | 左右 | 組合状況 | 備考 | |
|------|--------|-----|--------|-----|-----|----|------|-----------|----|
| | | | | | | | | 種名 | 備考 |
| 7層 | 大木7a | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | 預除品（ヘアピン） | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | 約計 | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | 不明 | 不明 | - | - | - | 骨片 | - |
| A2層 | 大木6新段 | 鳥類 | キヨフトリ科 | 尻骨 | 骨幹部 | 左 | 組合 | - | - |
| A2層 | 大木6新段 | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | - | - |
| A2層 | 大木6新段 | 哺乳類 | 不明 | 不明 | - | - | - | 加工痕あり | - |
| A2層 | 大木6新段 | 哺乳類 | ウサギ | 四肢骨 | 骨幹部 | - | - | 加工 | - |
| A2層 | 大木6 | 哺乳類 | イヌ科 | 脛骨 | 軸骨 | - | 組合 | イヌ科 | - |
| A2層 | 大木6 | 哺乳類 | ニホンジキ | 脛骨 | 軸骨 | - | 組合 | - | - |
| A2層 | 大木6 | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | 加工痕あり | - |
| A2層 | 大木6 | 哺乳類 | 不明 | 不明 | - | - | - | - | - |
| A2層 | 大木6 | 哺乳類 | 不明 | 肋骨 | 骨幹部 | - | - | 海獣類 | - |
| 層名不明 | 時期不明 | 哺乳類 | クジラ目 | 肋骨 | 骨幹部 | - | - | 鯨骨製品 | - |

第28表 哺乳類・鳥類の観察表（4mm目フルイ資料）

| 層名 | 時期 | 大分類 | 種名 | 部位 | 部分 | 左右 | 組合状況 | 備考 | |
|-----|--------|-----|-------|-----|-----|----|------|--------|----|
| | | | | | | | | 種名 | 備考 |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | ウサギ | 肩臼骨 | 遠位端 | 右 | 組合 | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | ウサギ | 肩臼骨 | 遠位端 | 右 | 組合 | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | キジ科 | 肩臼骨 | 遠位端 | 右 | 組合 | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | 不明 | 肩甲骨 | 骨幹部 | 左 | - | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | 不明 | 不明 | - | - | - | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 鳥類 | 不明 | 不明 | - | - | - | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | 加工痕あり | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 哺乳類 | ニホンジキ | 脛骨 | 遠位端 | 右 | 組合 | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 哺乳類 | ウサギ | 尺骨 | 海獣端 | 左 | 組合 | - | - |
| 13層 | 大木7a古段 | 哺乳類 | 不明 | 不明 | - | - | - | 中手/中足骨 | - |
| C層 | 大木6 | 哺乳類 | ニホンジキ | 角 | - | - | - | 加工痕あり | - |
| C層 | 大木6 | 哺乳類 | ニホンジキ | 脛骨 | 上腕四 | 右 | - | - | - |
| C層 | 大木6 | 哺乳類 | ウサギ | 脛骨 | 脛骨体 | - | - | 車輪台付 | - |

第29表 貝類の集計表（現場採集資料）

| 種名 | 7層 | | A2層 | | 総計 | 生息域 (備註2001) |
|---------|---------------|--------------|---------------|--------------|-------|-----------------|
| | 大木7a (左/右) | 大木6 (左/右) | 大木7a (左/右) | 大木6 (左/右) | | |
| アマニシキ | 0/3 | - | - | - | 0/3 | 岩礁・埋 |
| マサキ | 1/1 | - | 1/1 | - | 1/1 | 岩礁・埋 |
| ミナコイ | 1/0 | - | 1/0 | - | 1/0 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1/0 | - | 1/0 | - | 1/0 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 4/0 | - | 4/0 | - | 4/0 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 0/1 | - | 0/1 | - | 0/1 | 砂・砂混質 |
| アサシ | 2/3 | - | 2/3 | - | 2/3 | 砂・砂混質 |
| ウチムウサキ | 1/6 | - | 1/6 | - | 1/6 | 砂・砂混質 |
| ササハライ | 0/3 | - | 0/3 | - | 0/3 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1/0 | - | 1/0 | - | 1/0 | 砂・砂混質 |
| 総計 | 11/12 | - | 11/12 | - | 11/12 | - |
| クサハライ | 2 | - | 2 | - | 2 | 岩礁・埋 |
| コシダカガンゴ | 5 | - | 5 | - | 5 | 岩礁・埋 |
| クサハライ | 2 | - | 2 | - | 2 | 岩礁・埋 |
| イカニシ | 2 | - | 2 | - | 2 | 岩礁・埋 |
| アサシ | - | 1 | - | 1 | 1 | 砂・砂混質 |
| 総計 | 11 | 1 | 12 | - | 12 | - |

第30表 貝類の集計表（4mm目フルイ資料）

| 種名 | 7層 | | 13層 | | 総計 | 生息域 (備註2001) |
|---------|---------------|--------------|---------------|--------------|---------|-----------------|
| | 大木7a (左/右) | 大木6 (左/右) | 大木7a (左/右) | 大木6 (左/右) | | |
| クサハライ | 25/24 | - | 4/1 | - | 29/25 | - |
| イサキ | 3/5 | 4/2 | 6/7 | - | 6/7 | 岩礁・埋 |
| ウチムウサキ | 3/0 | - | 3/0 | - | 3/0 | 岩礁・埋 |
| アマニシキ | 4/4 | 25/25 | 29/29 | - | 29/29 | 岩礁・埋 |
| マサキ | - | - | 18/19 | - | 18/19 | 岩礁・埋 |
| ウサギ | 1/2 | - | 1/2 | - | 1/2 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1/0 | - | 1/0 | - | 1/0 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 38/53 | 2/1 | 60/52 | - | 60/52 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 25/27 | 4/1 | 29/28 | - | 29/28 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1/1 | - | 1/1 | - | 1/1 | - |
| クサハライ | 0/1 | - | 0/1 | - | 0/1 | - |
| アサシ | 229/236 | 46/80 | 275/306 | - | 275/306 | 砂・砂混質 |
| ウチムウサキ | 0/1 | 8/3 | 8/4 | - | 8/4 | 砂・砂混質 |
| マサハライ | 0/1 | 7/7 | 7/7 | - | 7/7 | - |
| クサハライ | 0/1 | - | 0/1 | - | 0/1 | 砂・砂混質 |
| 二枚貝不明 | - | - | 1/1 | - | 1/1 | - |
| 総計 | 348/341 | 120/142 | 468/483 | - | 468/483 | - |
| クサハライ | 6 | - | 6 | - | 6 | 岩礁・埋 |
| コシダカガンゴ | 40 | - | 40 | - | 40 | 岩礁・埋 |
| イサキ | 40 | - | 40 | - | 40 | 岩礁・埋 |
| ウチムウサキ | 50 | 3 | 53 | - | 53 | - |
| イサキ | 19 | 34 | 43 | - | 43 | 岩礁・埋 |
| イサキ | 9 | 31 | 40 | - | 40 | 岩礁・埋 |
| ウサギ | 2 | - | 2 | - | 2 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 6 | 2 | 8 | - | 8 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1 | - | 1 | - | 1 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 1 | - | 1 | - | 1 | 岩礁・埋 |
| クサハライ | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 岩礁・埋 |
| クサハライ | 2 | - | 2 | - | 2 | 岩礁・埋 |
| クサハライ | 21 | 2 | 23 | - | 23 | 岩礁・埋 |
| アサシ | 1 | - | 1 | - | 1 | 砂・砂混質 |
| クサハライ | 5 | - | 5 | - | 5 | - |
| クサハライ | 1 | - | 1 | - | 1 | - |
| 総計 | 221 | 77 | 298 | - | 298 | - |

第31表 フジツボ類・ウニ類の集計表（4mm目フルイ資料）

| 種名 | 部位 | 7層 | | 13層 | | 総計 |
|---------|----|------|-----|--------|-----|----|
| | | 大木7a | 大木6 | 大木7a古段 | 大木6 | |
| ネシマフジツボ | 殻板 | 2 | 49 | - | - | 56 |
| フジツボ | 殻板 | 1 | 13 | 4 | 5 | 23 |
| ウニ | 殻板 | 1 | 13 | 14 | 14 | 42 |
| 総計 | | 4 | 66 | 18 | 19 | 77 |

第32表 フジツボ類・ウニ類の質量表（4mm目フルイ資料）

| 種名 | 部位 | 7層 | | 13層 | | 総量 |
|---------|----|-------|-------|--------|-------|-------|
| | | 大木7a | 大木6 | 大木7a古段 | 大木6 | |
| ネシマフジツボ | 殻板 | 0.69g | 5.23g | - | - | 5.92g |
| フジツボ | 殻板 | 0.05g | 0.39g | 0.14g | 0.14g | 0.72g |
| ウニ | 殻板 | 0.05g | 0.53g | 0.56g | 0.56g | 1.69g |
| 総質量 | | 0.79g | 6.15g | 0.70g | 0.70g | 7.34g |

謝辞

本報告にあたり、鶴山真委、田中香里、中島美穂子、吉田昭代（50音順、敬称略）のご協力を得ました。記して、感謝の意を表します。

引用文献

- 阿部永監修 2008 『日本の哺乳類 改訂2版』東海大学出版会
- 大船渡市立博物館編 1987 『鯨の浦貝塚』大船渡市立博物館調査研究報告
- 奥谷喬司編 2000 『日本近海産貝類図鑑』東海大学出版会
- 熊谷賢 2001 『動物遺存体』『中沢浜貝塚発掘調査報告書—平成9年度発掘 骨角器・自然遺物編—』陸前高田市文化財調査報告書第23集、pp.37-97
- 中坊徹次編 2013 『日本産魚類検索—全種の同定—』第3版、東海大学出版会
- 西村三部編 1992 『原色検索日本海岸動物図鑑 [I]』保育社
- 西村三部編 1995 『原色検索日本海岸動物図鑑 [II]』保育社
- 日本鳥学会編 2012 『日本鳥類目録 改訂第7版』日本鳥学会
- 宮城県鹿が浦高等学校社会部 1971 『気仙沼市南最知遺跡発掘調査報告』

写真図版



1次調査対象地全景 (南西から)



1次調査トレンチ全景 (北東から)



T3 全体 (東から)



T3 東・貝層検出状況 (南から)



T3 調査区北部 (旧調査区部分南壁)



T3-13・A 層検出状況



T3-A2 層土器出土状況



T3-A2' 層土器・骨出土状況

写真図版1 縄草貝塚発掘現場 (1)



T3-B 下層マグロ椎骨出土状況



T3-C 層 №5 土器出土状況



T3 北側深堀り部堆積状況



T2 北側 (南から)



T5 西壁 (東から)



T5 南部 包含層検出状況 (西から)



T6 具層・包含層検出状況 (南から)



T7 北壁 (南から)

写真図版2 磯草貝塚発掘現場 (2)



写真図版3 磯草貝塚出土土器 (1)



写真图版4 碗草貝塚出土土器 (2)



写真图版5 碗草貝塚出土土器 (3)



写真図版6 碗草貝塚出土土器 (4)



写真図版7 碗草貝塚出土土器 (5)



写真図版 8 碗草貝塚出土土器 (6)



写真図版 9 碗草貝塚出土土器 (7)



写真図版 10 磯草貝塚出土土製品・石器・骨角器



1: アサリ、2: オニアサリ、3: ウチムラサキ、4: オオノガイ、5: マガキ、6: アズマニシキ、7: カガミガイ、
 8: カリガエエガイ、9: ウソシジミ、10: イガイ、11: クチバエイ、12: タマキセ、13: イシダタミ、14: スガイ、
 15: クボガイ、16: コシダカガンガラ、17: イボニシ、18: アカニシ、19~23: マダコ属 (19: 腹椎、20~22: 尾椎、23: 歯骨)、24~27: マダイ (24: 第一椎骨、25: 前上顎骨、26: 主上顎骨、27: 歯骨)、28: アナゴ科幼骨、
 29: プリ属歯骨、30: ベラ科歯骨、31・32: カツオ (31: 椎骨、32: 主上顎骨)、33: ソウダカツオ属尾椎、
 34: カレイ科尾椎、35: アジ科腹椎、36: サハ属尾椎、37: カワハギ科第一背縁棘、38: 板鰓亜綱椎骨、
 39: サワラ属腹椎、40: フダ科前上顎骨、41・42: アイナメ属 (41: 尾椎、42: 方骨)、43: メバル科歯骨、
 44・45: ニホンジカ (44: 角、45: 橈骨)、46: カイツブリ科尺骨、47: キジ科鳥口骨、48: カモ亜科鳥口骨、
 49: ウ科鳥口骨

写真図版 11 磯草貝塚出土動物遺存体



3区全景 (北東から)



3区 SK2 底面礫群出土状況 (南西から)



3区 SK7 底面礫出土状況 (東から)



3区 SK8 (南から)



3区 SK2・3 (東から)



3区 SK4 断面 (東から)



3区 SK9 遺物出土状況



3区 SK9 石皿出土状況 (南から)



3区 SK4 土器出土状況



3区 SK4 (南から)



3区 SK10 断面 (南東から)



3区 SK10 (南から)



3区 SK6・11 (南東から)



3区 SK7 (南から)



3区調査風景 (南から)



4区全景 (南東から)

写真図版 12 高谷遺跡発掘現場 (1)

写真図版 13 高谷遺跡発掘現場 (2)



4区 SK2 断面 (北から)



4区 SK2 完掘 (南から)



4区 SK3 (北東から)



4区 SK4 底面礫群出土状況 (東から)



4区 SK5 断面 (北東から)



4区 SK6 (東から)



4区 SK7 断面 (北東から)



4区調査風景 (北西から)

写真図版 14 高谷遺跡発掘現場 (3)



写真図版 15 高谷遺跡出土土器



写真図版 16 高谷遺跡出土石器 (1)



写真図版 17 高谷遺跡出土石器 (2)



道跡通景 (東から)



調査区全景 (南西から)



SK1 完掘 (南から)



SK2 断面 (南から)



SK2 完掘 (東から)



SK1・2、P1 完掘 (北東から)



SK3 完掘 (南東から)



SK4 完掘 (北東)

写真図版 18 古館貝塚発掘現場



写真図版 19 古館貝塚出土遺物



1次T1全景（東から）



1次T2全景（西から）



1次T2土器埋設炉群（東から）



1次T2土器埋設炉詳細



2次全景（南から）



2次S03掘り下げ状況（東から）



2次S11床面検出状況



2次S11貯蔵穴内炭化材（西から）

写真図版20 南蔵知貝塚発掘現場



写真図版21 南蔵知貝塚出土遺物

報告書抄録

| ふりがな | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ | | | | | | | |
|-------------------|---|-----------------------|---------------------|----------------------|-------------------------|--|--|----------------|
| 書名 | 気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書 1 | | | | | | | |
| 副書名 | 平成 24 年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査 | | | | | | | |
| シリーズ名 | 気仙沼市文化財調査報告書 | | | | | | | |
| シリーズ番号 | 10 | | | | | | | |
| 編著者名 | 森 幸一郎・平水場秀男・西村 力・古田和誠 | | | | | | | |
| 編集機関 | 気仙沼市教育委員会 | | | | | | | |
| 所在地 | 〒988-8502 気仙沼市魚市場前 1 番 1 号 TEL.0226-22-3442 | | | | | | | |
| 発行年月日 | 西暦 2017 年 12 月 22 日 | | | | | | | |
| ふりがな 所収遺跡名 | ふりがな 所在地 | コード | | 世界測地系 | | 調査期間 | 調査面積 | 調査起因 |
| | | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | | | |
| いせくまかいせつか 磯草貝塚 | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ 磯草 | 042056 | 59001 | 38 度 52 分 15 秒 | 141 度 36 分 15 秒 | (平成 24 年度 1 次) 2012.10.17 ~ 10.25 (平成 24 年度 2 次) 2013.03.07 ~ 03.08 | 24m ² 110m ² | 個人住宅建設 |
| たかやちせきせき 高谷遺跡 | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ 松崎高谷 | 042056 | 59109 | 38 度 52 分 10 秒 | 141 度 34 分 36 秒 | (3区) 2012.05.29 ~ 06.12 (4区) 2013.03.21 ~ 03.26 | (3区) 235m ² (4区) 141m ² | 個人住宅建設 (道路) |
| ふるてかいせつか 古館貝塚 | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ 唐桑町 福立 | 042056 | 63017 | 38 度 53 分 31 秒 | 141 度 38 分 19 秒 | 2012.07.28 ~ 08.01 | 51m ² | 個人住宅建設 |
| みなみかいせつか 南殿知貝塚 | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ 南殿知 | 042056 | 59035 | 38 度 50 分 57 秒 | 141 度 34 分 45 秒 | (平成 24 年度 1 次) 2012.06.13 ~ 06.19 (平成 24 年度 2 次) 2012.08.06 ~ 08.10 | 198m ² 155m ² | 個人住宅建設 |
| はしちかいせつか 星谷遺跡 | けせんぬましんさいふつこうかんれんいせきはつくつちようさほうこくしよ 岩月星谷 | 042056 | 59104 | 38 度 51 分 29 秒 | 141 度 34 分 31 秒 | 2012.09.21 ~ 10.02 | 40m ² | 個人住宅建設 |
| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | | 主な遺物 | | 特記事項 | |
| 磯草貝塚 | 貝塚 | 縄文時代 | 貝層 | | 縄文土器、石器、土偶、骨角器 動物遺存体 | | | |
| 高谷遺跡 | 散布地 | 縄文時代 | 貯蔵穴・土坑 | | 縄文土器、石器 | | | |
| 古館貝塚 | 貝塚 | 縄文時代 | 貯蔵穴 | | 縄文土器、石器 | | | |
| 南殿知貝塚 | 貝塚 集落 | 縄文時代 奈良・平安時代 中世 | 貯蔵穴建物跡、土器 埋設炉、土坑 | | 縄文土器、石器、須恵器 土師器 | | | |
| 星谷遺跡 | 集落 | 縄文時代 | 貯蔵穴建物跡、土坑 | | 縄文土器、石器 | | | |
| 要約 | 磯草貝塚では縄文時代前期末葉～中期初葉の貝層が検出され、前期初頭～中期中葉～晩期の土器・石器・土偶・骨角器が出土した。高谷遺跡では縄文時代中期末～後期初頭の貯蔵穴群が検出され、中期中葉～後期初頭の土器・石器が出土した。古館貝塚では縄文時代後期前葉とみられる貯蔵穴 4 基が検出された。南殿知貝塚では縄文時代前期～中期の土器埋設炉・土坑、奈良・平安時代の貯蔵穴建物跡、隣接する木太水跡に関連する堀とみられる溝跡が検出された。星谷遺跡では縄文時代前期とみられる貯蔵穴建物跡と前期前葉～後葉の遺物包含層が検出された。 | | | | | | | |



対象地全景（北から）



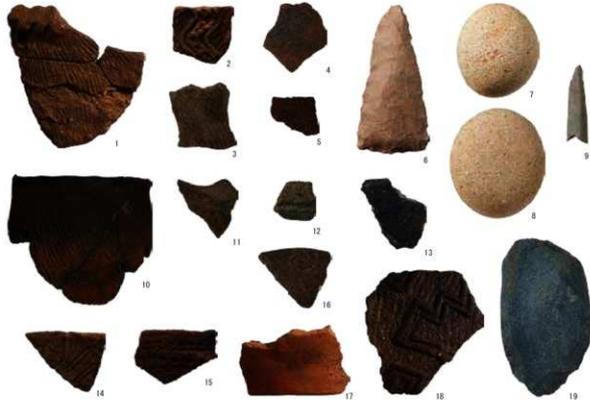
調査区全景（西から）



南壁および S11 掘り下げ状況（北西から）



S11 完掘状況（南から）



写真図版 22 星谷遺跡発掘現場・出土遺物

気仙沼市文化財調査報告書第10集

気仙沼市震災復興関連遺跡発掘調査報告書1

平成24年度東日本大震災復興交付金埋蔵文化財
発掘調査事業に伴う個人住宅関連遺跡発掘調査

発行日 2017年12月22日
編集・発行 気仙沼市教育委員会
〒988-8502 宮城県気仙沼市魚市場前1番1号
印刷 三陸印刷株式会社
〒988-0141 宮城県気仙沼市松崎柳沢228-100
TEL 0226-22-0319